

暗黙裡の性格観に関する研究 (II)*

— 共通尺度法と個別尺度法の比較検討 —

大橋正夫 林文俊¹⁾ 廣岡秀一²⁾

本論文は、故大橋教授が入院加療中も気にかけておられたものである。
謹んでご霊前に捧げ、ご冥福をお祈りする。

問 題

Bruner & Tagiuri (1954) ならびに Cronbach (1955) によって概念化された暗黙裡の性格観 (implicit personality theory, 以下 IPT と記す) とは、市井の一般人が他者を理解するに際して、暗黙のうちに依拠している素朴な信念の体系や判断枠組のことをさす。すなわち、人は他者についての種々の情報を自己のもつ IPT に照らして処理し、その人物の内面的特徴に関した何らかの判断を行なっている。したがって、ある刺激人物 (以下、SP と記す) に対するパーソナリティ認知は、当該 SP の real な特性のみならず、認知者をもつ IPT の内容や構造的特徴によっても大きく規定されることになる。それにもかかわらず、人は自己のもつ IPT に基づいて推論された他者のパーソナリティ像を、相手をもつパーソナリティそのものとする傾向がある。

IPT に関しては、これまで数多くの検討がなされているが、とりわけ1970年前後から研究が非常に活発化し、扱われる問題も広範囲になってきた感がある。こうした事実はとりもなおさず、IPT が、たんに社会心理学のみならず性格心理学³⁾ や臨床心理学の分野においても1つの重要なテーマとなることを物語っている。

われわれも、これまで対人認知の研究領域において、主として IPT の内容や構造的特徴に関する検討を行ってきた (大橋ら, 1972; 大橋ら, 1976; 林, 1979; 林ら, 1983; など)。しかし現在のところ、個々人をもつ

IPT を分析する上での十分な方法論を確立するまでに至っていない。IPT の分析法については、従来、様々な角度からのアプローチが試みられており (Schneider, 1973)、こうした状況のなかでは、それぞれの方法がもつ長所・短所を明確にしていくための基礎的検討を重ねることが不可欠であろう。最近、Powell & Juhnke (1983) は、このような立場から、IPT に関する因子分析的モデル、クラスター分析的モデル、多次元尺度構成法 (MDS) にそったモデルを相互に比較検討した研究結果を報告している。

ところで、前報 (林ら, 1983) において、われわれは個別尺度法を用いることによって、人が他者のパーソナリティを認知する際に働かせる諸次元の抽出を試みた。個別尺度とは、これまでのほとんどの研究で用いられてきたような研究者の側であらかじめ用意した一組の特性対 (これを以下、共通尺度と呼ぶ) ではなく、被験者が日常生活の中で他者のパーソナリティを判断する場合にしばしば用いたり、重要だと考えている特性語によって個々人ごとに構成されたものである。

周知のように、Kelly (1955) のパーソナル・コンストラクト理論においては、環境の理解に際して個人が働かせるユニークな認知次元の体系を明らかにすることの重要性が強調される。個別尺度法に基づくアプローチは、こうした Kelly (1955) の理論にもそったものであり、ここ数年 Rosenberg ら (Rosenberg, 1979; Gara & Rosenberg, 1979; Kim & Rosenberg, 1980)

* 本研究の結果の一部は、日本心理学会第47回大会において発表された。また資料分析のための計算は、名古屋大学大型計算機センターの FACOM M-200 によった。

1) 愛知工業大学工学部講師 2) 名古屋大学大学院教育学研究科博士課程 (前期)

3) ここ数年、パーソナリティ特性間の関連構造が IPT の観点から問題にされており、こうした点については、Mirels (1976, 1982) と Jackson 一派 (Jackson, Chan, & Stricker, 1979; Jackson & Stricker, 1982) との間の論争ならびに両者に対する Tzeng & Tzeng (1982) の見解などが参考になる。

も、同様な観点に立って個々人のもつIPTの分析を試みている。

しかしながら、個別尺度法を用いたわれわれの前回の研究(林ら, 1983)では、いくつかの点で制約があった。まず用いた個別尺度が単極形式であったことに加えて、評定するSPも各被験者ごとに異なっていたため、抽出された諸次元の内容を個人間で比較する場合などにおいて、分析方法上かなりの困難が伴った。また、被験者が男子大学生に限定されていたことも問題であった。そこで、このような点を改善したうえで新たに資料を収集し、個々人がもつIPTの内容や構造的特徴について、より詳細な分析を行なうことにした。

今回収集された資料の内容は、後述のようにかなり多岐にわたっている。これは本研究が、従来われわれのとってきたアプローチ(林, 1976, 1979; など)の妥当性を個別尺度法に基づくそれとの関連で再吟味し、今後の方向性を探る目的をも兼ねているためである。また、これまでのIPTに関する分析においては、人が特性間に仮定している関連性の背後にある次元ないしカテゴリーを明らかにすることを企図したものが多く、具体的なSPの認知のされ方そのものを扱った研究はあまりない。われわれは、こうした点をも考慮に入れながら、今回の資料収集を計画した。

本稿においては、上記のような目的で収集された資料を、共通尺度法と個別尺度法との比較という観点から分析した部分について報告する。これは、今後のより詳細な分析を進める上での基礎資料としての性格が濃いものである。

なお以下においては、次のような想定により、個々人がもつIPTの内容が検討された。すなわち、人は様々な他者のパーソナリティを、何らかの認知構造に基づいて判断している。こうした認知構造は多次元の認知空間として考えることができ、ある個人がある他者を認知するということは、その個人がもつ多次元の認知空間の中へ当該SPを1つの点として位置づけることである、と想定する。そして、個々人の多次元の認知空間を、共通尺度法ならびに個別尺度法で収集された資料の因子分析によってとらえ、両者の場合の空間を構成する諸次元の

内容を相互に比較検討する。

方 法

1 被験者および調査期日

被験者は、N大学教育学部教育心理学科3年生および4年生25名(男子13名, 女子12名)。調査は1982年3月に実施した。

2 調査内容と手続き

上記教育心理学科に在籍する全学生(自分自身を含めて男女各16名)をSPとし、彼ならびに彼女らの性格的な特徴に関して、被験者は以下の6種の調査に順次回答することを求められた。なお調査の実施に際しては、あらかじめ全学生にIDナンバーを付し、反応はすべてこのIDナンバーによって報告された。これは、誰が誰を評定した資料であるかが、われわれ研究者に知られることがないことを保証するための配慮であった。

① 性格の類似性に基づくSPのグルーピング まず、各SPの氏名が印刷された32枚のカードを配布し、性格が比較的類似していると思われる人物同志をグルーピングするよう求めた。この場合、形成される最終的なグループ数は3~8程度とし、グループとして分類不能なSPは「その他」として一括処理してよい(ただし、その数は全SPの半数以下とする)ことを教示した。最終的なグループが確定した後、各グループごとに、そこに属する人物に共通した性格的特徴を自由に記述してもらった。

② 性格的にみた全SP間の類似度評定 マトリックスの行と列に全SPのIDナンバーが印刷された調査用紙を配布し、あらゆる2名の組合せについて、性格的にみた両者の類似度を「非常に似ている」~「全然似ていない」までの5段階で評定させた。

③ 性格的にみて対照的な2人のSPの列挙とその特徴の記述 SPのなかで、互いに性格が正反対だと思われる2人の組合せを少なくとも5組以上列挙させ、その性格的な特徴を特性語の形で記述するよう求めた。また、各特性対上において同じように分類可能なSPを、準メンバーとして何人でも挙げるように教示した(図1)。

No.	メンバー X ↔ メンバー Y	特 徴 x ↔ 特 徴 y	準メンバー X' ↔ 準メンバー Y'
1	F 15 ↔ M 3	ま じ め ↔ ふ ま じ め	M 5 ↔ M 12
2	F 4 ↔ M 4	話 し に く い ↔ 話 し や す い	M 5, F 6 ↔ F 11, F 8

注) F 15, M 3などの記号は、各SPに付されたIDナンバーである。

図1. ③における回答記入例

④ 個別尺度の作成と個別尺度上でのSP 評定 個別尺度作成の手続きは、われわれの先の研究(林ら, 1983)におけるそれとほぼ同様である。すなわち、まず16人の役割人物に対する性格的特徴の記述を求め、そこから一般に人の性格を判断する場合に重要だと考えられる特性を20個選択させる(この手続きの詳細については、前報を参照されたい)。そして今回は、選択された特性の対話も挙げさせて、20対の両極尺度を構成した。得られた尺度は Kelly (1955) のいう constructs に相当するものと考えられるが、われわれは、このようにして各被験者ごとに構成された尺度を個別尺度と呼んでいる。被験者は、この個別尺度上で32名のSP を評定(5段階)することを求められた。

⑤ 共通尺度に基づくSP 評定 ここでは、全被験者に共通した20の特性形容詞対尺度(大橋ら, 1973)の上で、32名のSP の性格的特徴を評定(5段階)させた。

⑥ グループの平均像に関する評定 最後に、上記①の手続きで得られた各グループごとに、そこに属するSP の性格的にみた平均像を、⑤と同じ共通尺度上で評定させた。

以上、調査手続きの概略を述べたが、本研究において各被験者から資料を収集するのに要した時間は、約6時間であった。

3 分析の手順

本稿では、上記の手続きにしたがって得られた資料のうち④と⑥の部分を取りあげ、次のような手順で分析を進める。

1) ⑤の資料(共通尺度法)に基づいて、人が他者のパーソナリティを認知する際の次元数やその内容について検討する。すなわち、ここでは自己評定資料を除外すると、個々人は31名のSP を20尺度上で評定していることになり、これを各被験者ごとに因子分析することが可能である。こうして抽出される因子構造を、被験者全体をコミにした場合のそれと比較することにより、両者の対応関係を分析する。

2) Cronbach (1955, 1958) は、他者に対するパーソナリティ認知を認知空間におけるSP の位置づけとしてとらえ、ある個人が認知した多数のSP の分布状況(平均, 分散, 相関)から認知者の個人差を測定する方法を提唱している。すなわち、たとえば図2に示した個人は、人を支配的方向で判断する傾向が強く(平均)、支配性と敵意の両次元の上で他者を弁別的に認知している(分散)。しかも支配性に関する認知と敵意におけるそれとが一致する傾向にある(相関)。本稿でも、こうした考え方に準じて、⑤の資料からパーソナリティ認知構造の

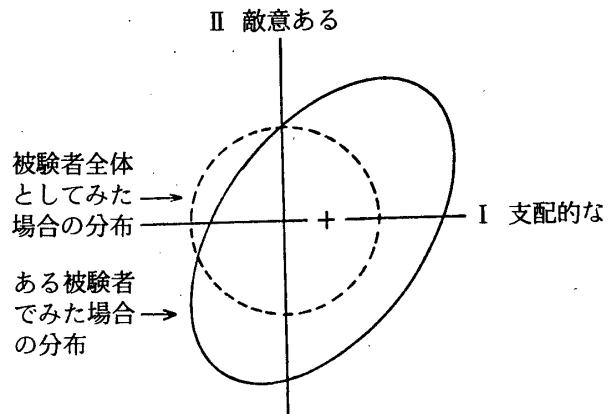


図2 仮想的なある個人によって認知された他者の分布(Cronbach, 1958)

個人差について分析する。

3) ④の資料(個別尺度法)を被験者ごとに因子分析することにより、各人に固有なパーソナリティ認知次元を抽出する。同時に、これらの内容について、共通尺度法により得られた因子との関連で検討を加える。

結果と討論

1 共通尺度法によるパーソナリティ認知次元の抽出

まず、25名の被験者がそれぞれ31名のSP を共通の20尺度上で評定した資料から、775(=25×31)をサンプルとして20×20の尺度間相関行列を算出し、これを因子分析した。なお、本研究における因子分析はすべて主因子法により、E(固有値)≥1.0の因子をバリマックス回転した。

析出された因子構造は、表1に示されている。これは、従来われわれがたびたび得てきたパーソナリティ認知の基本3次元構造(林, 1978; など)に符合しており、第I因子は他者に対する好感・親和に関する個人的親しみやすさの次元、第II因子は尊敬・信頼に関する社会的望ましさの次元を表わしている。また、第III因子は活動性と意志の強さが融合した力本性(dynamism)の次元と解釈できる。

次に、各被験者ごとに、31(SPの数)をサンプルとして同じく尺度間相関行列を求め、それぞれを因子分析した。図3は、E≥1.0の基準で抽出された因子数の度数分布を示す。これによれば、全体の3/4以上の個人は、4~5因子構造を呈しており、とりわけ女性の被験者はすべてこの範囲内にある。なお、因子数のモードを性別にみると、男性(13人)では6人が4因子構造を呈するのに対し、女性(12人)の半数は5因子構造となっている。

表2-1および表2-2は、各被験者ごとに抽出され

暗黙裡の性格観に関する研究 (II)

表 1. 共通尺度法による資料の被験者全体での因子構造 (基本 3 次元構造)

尺 度	因 子			h^2
	I 個人的親 しみやすさ	II 社 会 的 望 ま し さ	III 力 本 性	
1. 心のせまい—心のひろい	.64	.12	.25	.49
2. 社 交 的 な—非 社 交 的 な	-.41	.40	-.54	.63
3. 責 任 感 の 有 る—責 任 感 の 無 い	-.33	-.61	-.33	.59
4. 慎 重 な—軽 卒 な	-.05	-.78	.04	.61
5. 恥 か し が り の—恥 し ら ず の	-.22	-.58	.47	.60
6. 親 し み に く い—親 し み や す い	.72	-.31	.19	.66
7. 意 欲 的 な—無 気 力 な	-.15	-.18	-.66	.49
8. 自 信 の 有 る—自 信 の 無 い	.20	.04	-.74	.58
9. 短 気 な—気 長 な	.42	.28	-.29	.34
10. 親 切 な—不 親 切 な	-.75	-.21	-.11	.62
11. 消 極 的 な—積 極 的 な	.06	-.18	.76	.61
12. 人 の よ い—人 の わ る い	-.74	-.09	.01	.55
13. な ま い き な—な ま い き で な い	.63	.28	-.31	.58
14. 近 づ き が た い—人 な つ つ こ い	.67	-.38	.21	.64
15. か わ い ら し い—に く ら し い	-.72	-.08	.07	.53
16. 軽 薄 な—重 厚 な	-.03	.73	.00	.53
17. う き う き し た—沈 ん だ	-.39	.52	-.41	.60
18. 卑 屈 な—堂 々 と し た	.14	.15	.51	.30
19. 感 じ の よ い—感 じ の わ る い	-.79	-.15	-.14	.67
20. 無 分 別 な—分 別 の 有 る	.30	.68	.20	.59
寄 与 率 (%)	24.3	16.6	15.1	

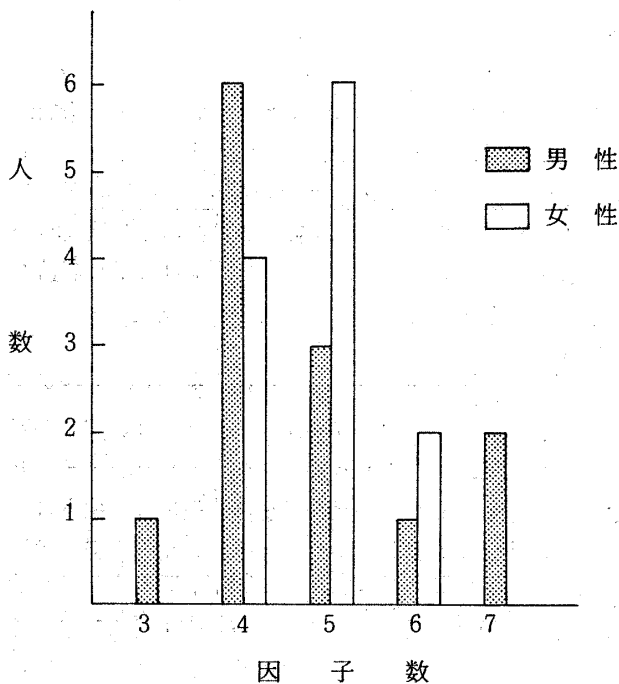


図 3 共通尺度資料の被験者ごとの因子分析から得られた因子数の度数分布

た因子と被験者全体を合わせた分析から得られた因子 (基本 3 次元) との対応関係を, Tucker の適合性係数 (C) によってみたものである。⁴⁾ C の絶対値が 0.4597 に満たない場合には, 相互に類似した因子とみなせないとされるため (Harman, 1967, P.271), そのような値は表中から削除してある。ちなみに, この基準でみて基本 3 次元のいずれとも対応を示さない因子は, 個人ごとに抽出された全 120 因子中のわずか 6 因子にすぎない。こうした結果は, われわれの提唱するパーソナリティ認知の基本 3 次元が, かなりの一般性をもったものであることを示唆している。

しかしながら, 個々の被験者を単位として検討してみると, 基本 3 次元とよく対応した因子構造になっている

4) ある因子の尺度 i に対する因子負荷量を a_i , 他の因子のそれを b_i とすると, c は次式によって定義される。

$$C = \frac{\sum a_i \cdot b_i}{\sqrt{\sum a_i^2} \cdot \sqrt{\sum b_i^2}}$$

表 2-1 各被験者（男性）の因子構造と基本 3 次元との対応

被験者 (男性)		各被験者において抽出された因子						
		1	2	3	4	5	6	7
M 1	親	.70	-.53					
	社	.74	.67					
	力			.66	.82			
M 2	親	.89						
	社		-.53	.86				
	力		.84		.51			
M 4	親	.68			.63	.60		
	社		.74					
	力			.69				
M 5	親			.86	.71			
	社	.82				-.58		
	力		.55			.60		
M 6	親		.83		.53			
	社	.86				.60		
	力	-.47		.89	.50			
M 7	親	.55	.86					
	社	.81			.82			
	力		.53	.80				
M 8	親	.88		.56				
	社			.60	.75			
	力		.92					
M 9	親	-.59			.76			
	社	.60	.84					
	力	-.51		.88		.54		
M10	親				.69	.88	.49	
	社	.75					.49	
	力	-.52	.69	.57				
M11	親			.92	.72			
	社		.91					
	力	.73			.50			
M12	親	.90						
	社	.48		.88				
	力		.97					
M15	親		.66		.56			
	社	.63					.65	.49
	力				.46	.68		
M16	親	.96						
	社		.84					
	力			.81				

表 2-2 各被験者（女性）の因子構造と基本 3 次元との対応

被験者 (女性)		各被験者において抽出された因子						
		1	2	3	4	5	6	7
F 1	親	.70	.42					
	社		.58		.63			
	力			.76				
F 2	親	.90	.49					
	社		-.58	.93				
	力		.72		.77			
F 6	親	.78			.76			
	社			.78				
	力	.56	.82					
F 7	親			.85	.85			
	社	.96				.54		
	力		.95					
F 8	親	.91	.46					
	社		.81					
	力	.47		.89	.58			
F 9	親	.94			.77			
	社			.85				
	力		.93		.59			
F11	親	-.47	.68		.73			
	社	.65				.78		
	力	-.46		.72			.56	
F12	親	.94	.87	.58				
	社			.59	.89			
	力					.90		
F13	親	.90			.64			
	社		-.54	.68				
	力		.76					
F14	親	.56			.79	.49		
	社	-.61	.77					
	力			.79				
F15	親	.86			.82			
	社			.97				
	力		.82			.48		
F16	親		.87		.65		-.48	
	社	.86					.50	
	力			.70	.68			

注 1) 各被験者ごとに抽出された因子数は、|| で示した

なお、因子は寄与率の大きさの順にならべてある。

注 2) ゴシック体の数値は、.80 以上のものを示す。

注 3) 親：個人的親しみやすさ，社：社会的望ましさ
力：力本性

暗黙裡の性格観に関する研究 (II)

個人とそうでない個人とが存在することがわかる。M16, F7, F9, およびF15は前者の例であり, これらの個人において抽出された上位3因子は, それぞれ基本3次元のいずれかと $C \geq .80$ の対応を示している。逆に, M4, M15, F1, F11, およびF14などでは基本3次元との対応が比較的わるく ($C \geq .80$ の対応が皆無), これらの個人の他者に対する認知構造のユニークさが示唆される。後述する個別尺度法に基づく分析は, こうした個人においてより大きな意義をもつものと考えられる。

2 共通尺度法に基づく認知構造の個人差の分析

先の775をサンプルとした因子分析においては, 各サ

ンプルが基本3次元に対してもつ因子得点をも算出した。そして, この得点からCronbach (1955, 1958) の提唱する認知構造指標の考え方に準じて, 各被験者ごとにSPの分布状況をみたのが表3である。

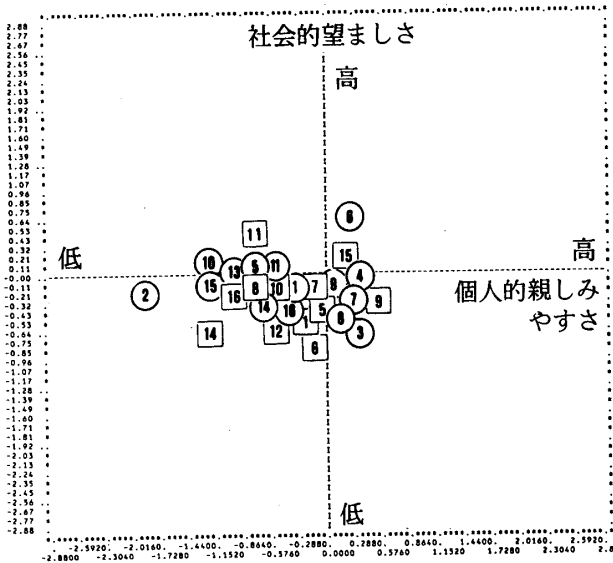
これによれば, たとえばM11は概してSP全体を親しみやすい人たちと認知している (平均=0.43) のに対して, M12は逆の傾向をもつ (平均=-0.57) ことなどが読みとれる。また, 以前, 基本3次元との対応が不明確であることを指摘したM4では, 各次元における分散が小さく, SPの分布が狭い範囲に収まっている。いわば, 31名のSPに対するパーソナリティ認知が比較的未分化であるといえる (図4)。対照的に, 基本3次元との対

表3 各被験者ごとにみた31名のSPの分布状況

	平均			分散			相関		
	親	社	力	親	社	力	親×社	親×力	社×力
M1	-.44	-.41	-.35	1.01	1.19	.85	.41*	-.04	-.23
M2	.08	-.19	.06	1.16	.95	1.09	-.45*	.03	-.38*
M4	-.42	-.19	-.29	.55	.27	.40	-.11	-.60**	-.14
M5	-.47	-.26	-.19	.67	.76	.72	.13	-.30	.43*
M6	.08	-.02	-.15	.53	.83	.56	-.30	.17	-.54**
M7	-.02	-.26	-.07	.71	.80	.55	.29	.16	.06
M8	.05	.05	-.03	1.49	1.20	1.32	-.40*	-.05	.03
M9	-.17	.03	.18	.71	.94	.89	-.14	.15	-.02
M10	.37	.51	.24	.77	.79	.87	-.28	-.01	-.06
M11	.43	.21	.23	1.30	1.15	1.36	-.06	-.36*	-.18
M12	-.57	-.10	-.17	1.71	1.50	1.60	.42*	-.02	-.22
M15	-.22	.04	-.27	.57	.83	.69	-.19	.07	.05
M16	.10	.19	.16	1.13	1.06	1.03	-.12	-.25	.20
F1	.97	.46	.46	.45	.59	.66	-.44*	.00	-.12
F2	.22	-.06	.09	.77	1.08	.74	-.07	-.11	-.45*
F6	.27	.30	.56	.74	.78	.99	-.32	.09	-.17
F7	.30	.21	.17	1.15	1.46	1.17	-.16	-.01	-.10
F8	.20	.14	.08	.88	.74	.87	.01	.26	.10
F9	-.18	-.24	.11	1.08	.90	1.24	-.04	.31	-.19
F11	-.21	-.34	-.32	.48	.60	.56	-.30	-.16	.17
F12	.28	.21	.12	.71	.56	.57	.01	.10	-.18
F13	-.22	-.23	-.41	.71	.51	.65	-.38*	-.30	-.12
F14	-.34	-.09	-.09	.59	.88	.67	-.11	-.03	.12
F15	.00	-.16	-.32	.95	.98	.90	-.15	-.35	.04
F16	-.06	.18	.19	.50	.64	.52	-.20	-.08	.10

注1) 親: 個人的親しみやすさ, 社: 社会的望ましさ, 力: 力本性

注2) * $p < .05$, ** $p < .01$



注1) □の数値は男性, ○の数値は女性。
 (たとえば②は, F 2の認知された位置を示す)
 注2) M 2, M 3, M13の位置は, いずれも第Ⅲ象限の原点近くにあるが, 図では省略した。

図4 被験者M4が認知したSPの布置

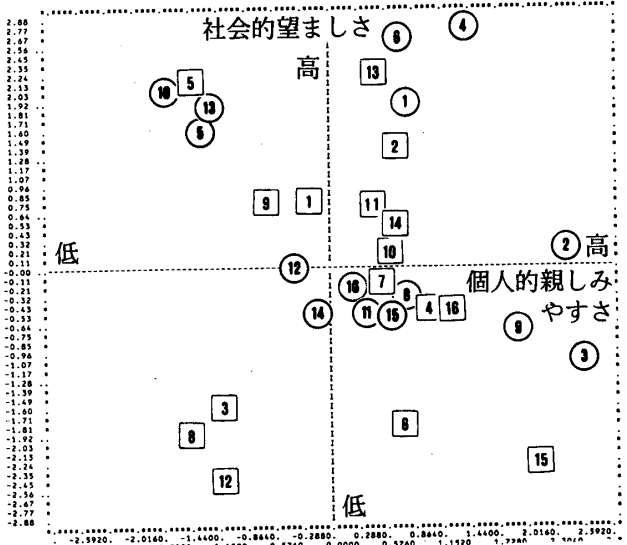


図5 被験者F7が認知したSPの布置

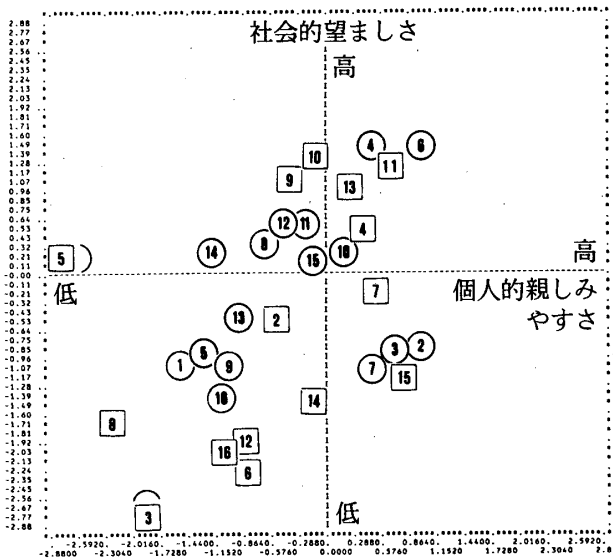


図6 被験者M1が認知したSPの布置

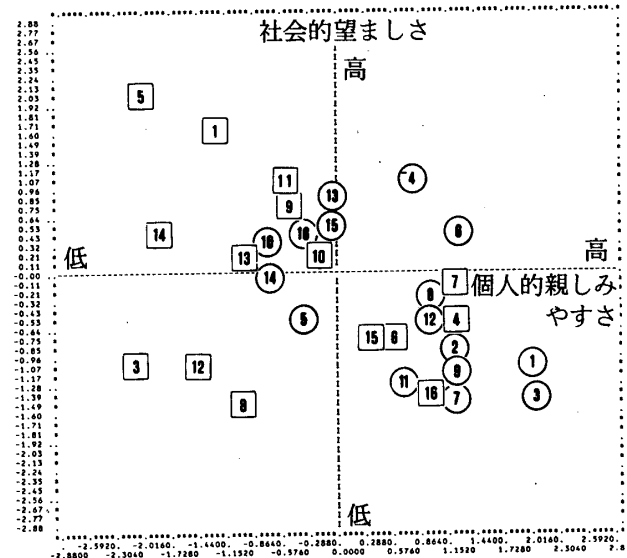


図7 被験者M2が認知したSPの布置

応が明確であったF7では, まさに弁別的な認知がなされている(図5)。さらに, たとえばM1の個人においては, 個人的親しみやすさの次元と社会的望ましさの次元が正に相関するものとしてとらえられている(図6)のに対して, M2では負の相関になっている(図7)ことなども興味深い。

なお, 上記の分析では, 全被験者に共通した認知空間(基本3次元構造)が想定されているので, そもそも基本3次元との対応が不明確な個人において各次元上でのSPの分散が小さくなることは, ある意味で当然の結果

ともいえる。しかし別の観点でいえば, このような結果は, Cronbach (1955, 1958) に準じたアプローチが認知構造の個人差を分析する場合に一定の有効性をもつことを裏づけているとみることもできよう。

ところで, 以上の分析では多数のSPに対する個々人の見方の違いを問題にしたが, 角度を変えて, ある個人が他の人たちからどのように見られているか, その見られ方の違いを問題にすることもできる。

図8は, M5の人物に対する各被験者の判断を, 認知空間(第I因子×第II因子)内における点として位置づ

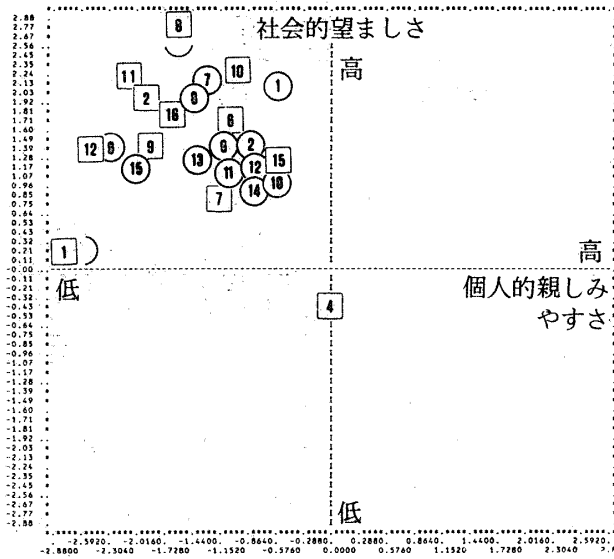


図8 認知された被験者M5の布置

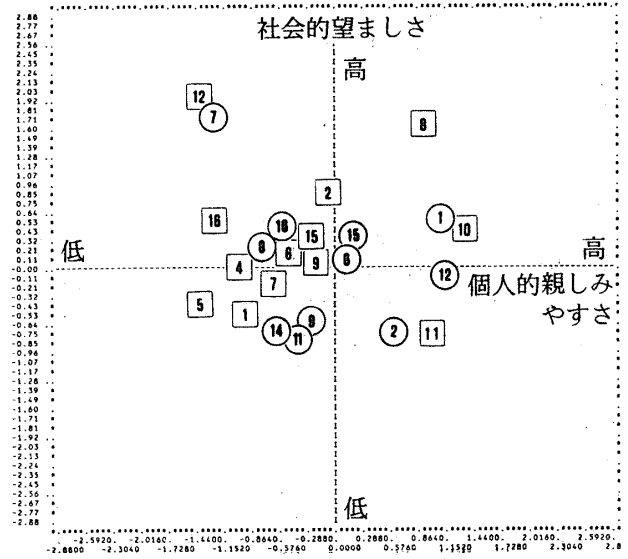


図9 認知された被験者F13の布置

けたものである。すなわち、この場合の図中の記号は、SPではなくて認知した主体を表わしている。これによれば、M5の見られ方には認知者による差異が比較的少なく、ほとんどの人たちが彼を親しみにくいが社会的には望ましい人物として見ていることがわかる。ちなみに、M4のみがかなり異なった見方をしているが、彼は先の分析においてもユニークな認知構造をもつ可能性が示唆された個人である。

対照的に、たとえばF13に対する見方は、認知者間で非常にバラエティに富んでいる(図9)。とりわけM11とM12との間では、これら両次元でみる限りほとんど逆の認知がなされている。このような場合には、個々人がもつ他者についての判断枠組や認知者とSPとの関係などを考慮に入れながら、人に対する見方の違いを詳細に分析していく必要がある。この点は、今後の検討課題の1つである。

3 個別尺度法によるパーソナリティ認知次元の抽出

本研究の被験者は、各人に固有な20の尺度上においても、共通尺度法の場合と同じ31名のSPを評定している。この資料を被験者ごとに因子分析し、 $E \geq 1.0$ の基準により抽出された因子数の度数分布をみたのが図10である。ここでは、全体の約9割の者が4~6因子構造を呈し、共通尺度法の場合よりも因子数が有意に多くなっている($t = 2.18, p < .05$)。また、被験者の性別にみると、ここでも共通尺度法の場合と同様、抽出される因子数は、男性よりも女性において多くなる傾向が認められた(ただし、有意ではない)。

各被験者別の因子構造は、表4-1~表4-25に示さ

れている。なお表中の因子の解釈は、あくまで暫定的なものであり、たとえば「やさしさ」と命名した因子と「思いやり」と命名したそれとの違いなどは、必ずしも絶対的なものではない。解釈された因子名が一人歩きすることがないように、われわれ自身慎重な扱いを心がけているつもりである。

表4-1~表4-25の下部には、個別尺度法により抽出された諸因子とパーソナリティ認知の基本3次元との

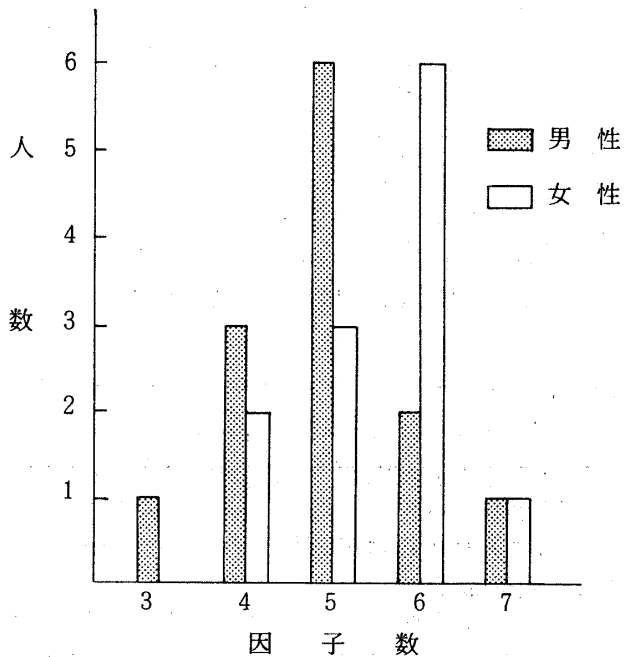


図10 個別尺度資料の因子分析から得られた因子数の度数分布

表4-1 M1の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因子	I	II	III	IV	V	h ²
		一般的 評価	鈍感さ	快活・ 軽薄	動感さ	本音と タテマエ の一致	
1	やさしい—やさしくない	-.73	.54	.10	-.05	.09	.84
2	分析力のある—分析力のない	.12	.07	-.06	-.15	-.49	.29
3	責任感のある—責任感のない	-.54	.43	.05	-.59	.12	.84
4	感性の鋭い—感性のにぶい	-.48	.70	.08	-.02	.14	.75
5	活発な—不活発な	.29	-.12	-.84	.00	-.23	.85
6	個人主義的な—集団主義的な	.68	-.48	-.06	.26	.05	.77
7	観念論的な—唯物論的な	.59	-.11	.11	.08	.27	.45
8	無神経な—きびんな	.10	-.90	-.11	.01	-.01	.82
9	うそつきな—正直な	.53	.07	-.16	-.29	.10	.41
10	人間味のある—人間味のない	-.56	.21	.24	.00	.13	.43
11	思いやりのある—思いやりのない	-.73	.39	.08	-.04	.13	.70
12	よく気がつく—ぼったく	-.25	.66	-.01	-.07	-.23	.56
13	頑張りやの—無気力な	.04	-.12	-.06	-.57	-.05	.34
14	たてまえ的な—本音とたてまえの一致した	.24	.05	-.21	-.22	.70	.64
15	他人にだけ厳しい—自分にも厳しい	.53	-.10	-.44	-.07	.29	.57
16	思慮深い—軽薄な	-.30	.41	.56	-.55	-.21	.92
17	努力家の—努力しない	-.17	.23	.33	-.78	.02	.80
18	おもしろい—つまらない	-.13	.01	-.81	.10	.17	.71
19	信頼できる—信頼できない	-.47	.44	.36	-.26	-.22	.65
20	利己的な—利己的でない	.80	-.23	.00	.33	-.04	.81
寄与率	$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	22.5	15.8	11.4	10.1	6.0	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V
(1)	個人的親しみやすさ	.74 **	-.54 **	.17	.05	-.12
(2)	社会的望ましさ	.50 **	-.30	-.63 **	.36 *	-.07
(3)	力本性	.06	.09	.52 **	.27	.43 *

注) * p < .05, ** p < .01

表4-2 M2の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因子	I	II	III	IV	V	h ²
		愛想の よさ	自 本 分 位	女 性 ら し さ	自 由 奔 放	先 輩 づ ら	
1	人を平等に扱う—人を不平等に扱う	-.69	.45	-.10	-.06	.06	.69
2	仲間のよう—仲間でない	-.81	.31	-.21	.06	.21	.85
3	やさしい—やさしくない	-.81	.48	-.47	-.07	.31	.92
4	陰向—明向	.76	-.06	-.07	.49	.14	.85
5	内向—外向	.76	.10	-.22	.51	.14	.91
6	外面がいい—？	-.79	.09	-.00	-.20	-.17	.69
7	陽気な—陰気な	-.75	.25	.04	-.43	-.10	.82
8	気さくな—気さくでない	-.84	.26	-.10	-.08	.07	.79
9	話をしやすい—話をしやすくない	-.84	.28	-.17	.05	.30	.91
10	何をしても許してくれそう—何をしても許してくれそうでない	-.16	.43	-.21	-.63	.27	.73
11	自分の考えを人に押しつける—自分の考えを人に押しつけない	.21	-.84	.15	.28	-.01	.86
12	他人の意見を認めない—他人の意見を認める	.36	-.80	.02	.23	-.27	.90
13	自分はすべて正しいと思っっている—自分はすべて正しいとは思っていない	.25	-.89	.18	.05	-.10	.90
14	自由な—自由でない	-.30	.28	.23	-.82	.07	.89
15	年上と年下で対応が—年上と年下で対応が	-.02	-.13	.28	.08	-.77	.69
16	人に言われるまま—人に言われるままでない	.40	.10	-.49	.02	-.10	.42
17	誰とでもつきあう—誰とでもつきあわない	-.78	.32	-.02	-.24	.14	.79
18	かわい—かわいくない	-.19	.14	-.92	.02	.06	.90
19	女性らしい—女性らしくない	-.13	.09	-.96	.08	.10	.96
20	先輩づらをする—先輩づらをしない	.06	-.12	-.17	.03	-.93	.92
寄与率	$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	32.2	16.7	13.2	10.1	10.0	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V
(1)	個人的親しみやすさ	.65 **	-.50 **	.36 *	.11	-.19
(2)	社会的望ましさ	-.56 **	.06	.05	-.63 **	-.04
(3)	力本性	.60 **	.35	-.42 *	.17	.11

暗黙裡の性格観に関する研究 (II)

表4-3 M4の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因子	因子							h ²
		I やさ しさ	II 指導性	III うる さ	IV 可愛 らしさ	V 巧言 令色	VI 開いた 心	VII 男らしさ	
1	やさしい—きつ	-.76	.08	.19	-.08	.05	.06	.01	.64
2	親切な—不親切な	-.72	-.03	.09	-.01	-.01	-.21	-.31	.66
3	女らしい—女らしくない	-.69	.24	.21	-.33	.01	-.02	.41	.84
4	きまじめな—きまじめでない	-.48	.02	.29	.02	.28	-.12	.08	.42
5	かわい—かわいくない	-.20	.03	-.02	-.93	-.21	.06	.07	.96
6	あけっぴろげの—閉じ	-.01	.13	-.65	-.06	-.52	-.48	.03	.94
7	積極的な—消極的な	.54	-.17	-.41	.07	.11	-.06	-.15	.53
8	さっぱりした—しつこ	-.20	-.13	.55	-.20	-.12	.02	-.05	.41
9	しょうじきな—ウソのある	-.01	.35	.03	.02	.71	-.20	-.11	.68
10	なまいきな—なまいきでない	.48	-.08	-.32	.33	-.29	.04	.19	.54
11	男らしい—男らしくない	.00	-.09	.06	-.07	.08	.01	-.72	.55
12	暖かい—冷たい	-.69	-.03	.07	-.05	.09	.04	-.00	.50
13	聞き上手な—聞き上手でない	-.48	.14	.20	-.05	.07	-.54	-.14	.61
14	話し上手な—話し上手でない	.15	.13	.07	-.03	-.64	.03	.03	.46
15	うるさい—うるさくない	.33	-.31	-.69	.01	-.01	.16	.07	.71
16	趣味のあった—趣味のあわない	-.11	-.02	.29	-.63	.15	-.24	-.20	.53
17	頼りになる—頼りにならない	.25	-.75	-.01	.07	-.12	-.18	.04	.68
18	筋の通った—筋の通らぬ	-.03	-.52	-.12	-.11	.35	-.80	-.14	.98
19	礼儀のある—礼儀の知らぬ	-.73	-.05	-.07	-.29	.08	-.35	.04	.75
20	指導力のある—指導力のない	-.09	-.80	-.01	-.03	.04	.06	-.23	.71
寄与率 $\sum a_i^2/N \times 100$ (%)		19.4	9.4	9.0	8.8	8.0	7.6	5.1	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V	VI	VII
(1) 個人的親しみやすさ		.53 **	.00	-.23	.54 **	-.07	.30	.17
(2) 社会的望ましさ		.13	-.04	-.42 *	-.21	-.15	-.10	-.07
(3) 力本性		-.41 *	.39 *	.52 **	-.40 *	-.06	.03	-.11

表4-4 M5の因子構造と型本3次元との対応

個別尺度	因子	因子					h ²
		I 力本性	II きま めさ	III 自立性	IV やさ しさ	V 頭 脳 断	
1	まじめな—ふまじめな	.08	-.67	-.24	-.14	-.63	.92
2	頭が良い—頭が悪い	-.06	-.12	.11	.04	-.73	.54
3	やさしい—やさしくない	.07	-.23	-.01	-.97	-.03	.99
4	厳し—甘えている	-.25	-.58	-.34	.35	-.33	.76
5	独立心がある—独立心がない	-.10	-.16	-.91	.18	-.02	.90
6	指導力がある—指導力がない	-.36	.18	-.82	.21	-.32	.69
7	持続力がある—持続力がない	.09	-.71	-.14	.00	-.32	.63
8	熟慮型である—衝動型である	-.12	-.79	.20	.05	.07	.69
9	いじけている—いじけていない	.50	-.10	.22	-.47	.05	.53
10	自己主張が強い—自己主張が弱い	-.51	.21	-.27	.33	-.51	.75
11	生活力がある—生活力がない	-.09	.08	-.85	-.08	.17	.78
12	社交性がある—社交性がない	-.21	.56	-.52	.03	-.23	.68
13	はきはきしている—なよなよしている	-.72	-.02	-.07	.26	.01	.60
14	実質を重んじる—外見を重んじる	-.05	-.33	-.09	.50	.11	.38
15	積極的である—消極的である	-.61	-.21	-.14	.53	-.10	.72
16	明るい—暗い	-.67	.47	-.14	.02	-.17	.71
17	自信がある—自信がない	-.51	.09	-.16	.56	-.17	.63
18	きどっている—きどっていない	-.21	-.09	.07	.59	-.12	.41
19	バランス感覚がある—バランス感覚がない	-.50	-.14	-.49	-.09	-.04	.49
20	外向的である—内向的である	-.69	.46	-.14	.16	.06	.73
寄与率 $\sum a_i^2/N \times 100$ (%)		15.9	15.2	14.6	14.0	8.5	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V
(1) 個人的親しみやすさ		-.04	.07	.26	.49 **	.00
(2) 社会的望ましさ		-.02	.61 **	.26	-.01	.40 *
(3) 力本性		.47 **	-.02	.35	-.42 *	.46 **

表4-5 M6の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因 子	I	II	III	IV	V	h ²
		愛 想 のよさ	信頼性	堅実さ	冷厳さ	情熱的	
1	面 白 い (興味深い) - つまらない (興味のもてない)	-.51	-.01	.08	-.45	.02	.47
2	社 交 的 - 非 社 交 的	-.95	-.07	.17	-.14	.03	.96
3	落 ち つ い た - 落 ち つ き の な い	.59	-.45	-.37	.09	.30	.78
4	判 断 力 の あ る - 判 断 力 の な い	.28	-.64	-.08	-.40	.23	.71
5	自 信 の あ る - 自 信 の な い	-.35	.00	.09	-.61	-.08	.51
6	有 能 な - 無 能 な	.13	-.54	-.34	-.17	-.33	.56
7	明 る い - 暗 い	-.83	.14	.12	.05	-.15	.74
8	賢 明 な - 賢 明 で な い	.16	-.20	-.62	.07	-.07	.46
9	乱 暴 な - や さ し い	.02	.53	.19	-.34	-.30	.52
10	冷 た い - 暖 い	.40	.08	.03	-.80	-.02	.82
11	気 が き く - 気 の き か な い	-.12	-.58	-.30	.21	-.01	.48
12	情 熱 的 な - 情 熱 的 で な い	-.07	-.11	-.18	-.07	-.85	.77
13	さ っ ぱ り し た - い や ら し い	-.07	-.15	.41	.00	.21	.24
14	愛 想 の な い - 愛 想 の あ る	.76	-.16	-.06	-.11	-.10	.63
15	礼 儀 正 し く な い - 礼 儀 正 し い	-.22	.22	.61	.06	-.22	.53
16	楽 し い - つ ま ら な い	-.83	.05	-.00	.10	-.10	.72
17	慎 重 な - 軽 率 な	.66	-.17	-.62	.14	.19	.91
18	頼 れ る - 頼 れ な い	.19	-.82	.03	.02	-.13	.73
19	大 人 っ ぽ い - 子 供 っ ぽ い	.35	-.46	-.33	-.17	.49	.71
20	誠 実 で な い - 誠 実 な	.16	.35	.61	-.23	.12	.59
寄 与 率	$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	22.9	13.7	11.4	8.7	7.6	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V
(1)	個人的親しみやすさ	.68 **	.35	-.11	-.30	-.05
(2)	社会的望ましさ	-.63 **	.40 *	.54 **	-.18	-.05
(3)	力 本 性	.44 *	.09	-.22	.42 *	.44 *

表4-6 M7の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因 子	I	II	III	IV	h ²
		厳 格 さ	心 の 広 さ	快 さ	押 し つ け が ま し さ	
1	き び し い - あ ま い	-.91	-.04	-.12	-.05	.84
2	熱 心 な - 熱 心 で な い	-.92	-.05	-.13	-.18	.89
3	よ く 気 の つ く - 無 神 経 な	-.62	-.50	-.44	.10	.84
4	快 い - 不 快 な	-.52	-.50	-.57	.17	.87
5	が ん こ な - 軟 弱 な	-.67	.17	.19	-.57	.84
6	気 ま ぐ れ な - 意 志 の あ る	.76	.29	-.09	-.14	.68
7	心 の 広 い - 心 の 狭 い	-.12	-.81	-.05	.30	.77
8	卑 屈 な - 寛 大 な	.05	.75	-.01	-.02	.57
9	神 経 質 な - 神 経 質 で な い	-.69	.16	-.26	.29	.65
10	わ が ま ま な - わ が ま ま で な い	.55	.50	.04	-.31	.65
11	純 真 な - 純 真 で な い	-.47	-.24	-.56	.28	.67
12	う わ っ づ ら な - 思 慮 深 い	.80	.01	.43	-.20	.86
13	押 し つ け が ま し い - 押 し つ け が ま し く な い	.25	.24	.07	-.67	.57
14	明 る い - 暗 い	.20	-.60	-.52	-.05	.67
15	や さ し い - 冷 た い	-.24	-.68	-.43	.04	.71
16	し っ か り し た - し っ か り し て い な い	-.85	-.25	-.05	.24	.84
17	軽 薄 な - 重 厚 な	.75	.11	.13	-.10	.60
18	た よ り な い - た よ り に な る	.77	.19	.08	-.22	.68
19	自 分 勝 手 な - 自 分 勝 手 で な い	.67	.34	.15	-.49	.83
20	気 む づ か し い - 気 む づ か し く な い	.10	.79	.15	-.17	.68
寄 与 率	$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	37.4	19.5	8.5	8.3	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV
(1)	個人的親しみやすさ	.29	.69 **	.60 **	-.27
(2)	社会的望ましさ	.84 **	.04	.03	-.26
(3)	力 本 性	.33	.21	-.10	.45 *

暗黙裡の性格観に関する研究 (II)

表4-7 M8の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因子	I	II	III	IV	V	VI	h ²
		人なつてさ	論理性	ナルシスト	図々しさ	気強さ	熱心さ	
1	やさしい—つめたい	-.84	-.04	.36	-.04	.15	-.02	.85
2	論理的—非論理的	-.01	-.86	-.07	.07	-.16	-.11	.80
3	強—弱	.20	-.50	-.23	-.24	-.69	-.21	.91
4	短気—気の長い	.89	.51	-.01	-.11	-.14	.13	.78
5	暗い—明るい	.82	-.08	-.15	.10	.33	-.03	.83
6	インケン—インケンでない	.83	.23	.07	-.15	.01	.27	.85
7	排他的な—ひととなつてない	.88	.01	-.04	.31	.06	-.08	.88
8	おしゃべりな—無口な	-.16	-.04	-.14	-.89	-.19	.04	.87
9	自己中心的な—自己中心でない	.28	-.12	-.77	-.02	-.25	.27	.82
10	かわい—かわいくない	-.87	.19	-.09	.05	.07	.17	.84
11	ぶりっこ—ぶりっこでない	-.64	.38	-.25	-.17	.06	.16	.67
12	ぼそっとした—はっきりした	.27	-.06	.08	.39	.77	.04	.84
13	ナルシスト—ナルシストでない	-.15	.05	-.84	-.17	.02	.09	.77
14	単純—ずるい	-.16	.66	-.06	-.06	.43	-.30	.74
15	冷静な—感激屋の	-.06	-.82	.06	-.21	.19	.14	.78
16	いかげんの—熱心な	-.15	.00	-.17	-.12	.04	.73	.60
17	態度のでかい—態度のでくない	.25	-.16	-.24	-.56	-.33	.22	.61
18	平凡な—ユニークな	-.02	.60	.47	.34	.09	.25	.76
19	おせっかいな—おせっかいでない	-.40	.29	.33	-.41	-.15	-.45	.75
20	なわばり意識の強い—なわばり意識の弱い	.63	.57	.11	-.22	.08	-.21	.83
寄与率 $\sum a_i^2/N \times 100$ (%)		27.0	17.1	10.2	9.6	8.7	6.5	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V	VI
(1)	個人的親しみやすさ	.92 **	-.01	-.22	.08	-.05	-.13
(2)	社会的望ましさ	-.39 *	.34	-.19	-.38 *	.01	.50 **
(3)	力本性	.00	.38 *	.29	.45 *	.58 **	.14

表4-8 M9の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因子	I	II	III	IV	V	VI	h ²
		ルーツさ	大らかさ	自己顕	純粋さ	明朗性	包容性	
1	大らかな—こせこせした	-.00	-.73	.07	.10	.02	-.19	.58
2	真面目な—不真面目な	.89	.12	.13	-.12	-.04	-.08	.84
3	純粋な—不純な	.35	.13	.14	-.67	-.47	-.20	.86
4	するどい—鈍い	.01	.12	.31	-.53	.16	-.01	.42
5	明るい—暗い	.13	-.20	-.52	.01	-.51	-.08	.59
6	子供っぽい—大人びた	-.43	.33	-.30	.05	-.45	.36	.73
7	かわい—にくらしい	.07	-.01	.01	.10	-.64	-.04	.43
8	自己本位な—他人を思いやれる	-.79	.01	.07	.09	.15	.41	.83
9	めだちたがる—つつまじやかな	-.20	.13	-.92	.07	.01	.11	.93
10	頼れる—頼りない	.85	-.33	-.04	.17	.12	-.19	.91
11	おもしろい—つまらない	-.40	-.19	-.41	.02	-.47	-.12	.59
12	さっぱりした—じめじめした	.01	-.63	-.18	.08	-.33	.17	.57
13	やさしい—冷たい	.26	.12	-.00	.06	.10	-.73	.63
14	しっかりしている—情ない	.80	-.26	.09	-.04	.13	-.29	.82
15	豊か—狭い	.02	-.32	.11	-.40	-.20	-.61	.69
16	わざとらしい—自然な	.06	.64	-.03	.47	-.16	-.14	.68
17	自信のない—自信のある	-.85	.08	.43	.15	.08	-.11	.65
18	自分に厳しい—自分に甘い	.88	.15	.11	-.17	-.14	-.03	.86
19	真摯な—適当な	.81	.35	.28	-.07	.04	.11	.88
20	心がきれいな—心が汚ない	.14	-.08	-.22	-.75	.14	-.03	.65
寄与率 $\sum a_i^2/N \times 100$ (%)		26.2	10.2	9.5	9.1	8.2	7.6	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V	VI
(1)	個人的親しみやすさ	-.08	.11	.13	.23	.37 *	.64 **
(2)	社会的望ましさ	-.50 **	-.01	-.59 **	.10	-.14	.08
(3)	力本性	-.50 **	-.03	.54 **	.19	.26	-.02

表4-9 M10の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因子	I	II	III	IV	V	h ²
		細心さ	冷淡さ	調子のよさ	粘着性	業朴さ	
1	おだやかな—激しい	-.63	.36	.38	.21	-.05	.72
2	暖かい—冷たい	-.10	.85	-.08	.11	-.18	.78
3	行動的—行動的でない	.59	.01	-.48	-.05	-.19	.61
4	陰気—陽気	-.55	-.02	.47	-.08	-.44	.72
5	さわやか—さわやかでない	-.32	.48	-.40	.55	-.06	.80
6	ひかえめ—でしゃばり	-.63	.29	.27	.20	-.22	.65
7	冷静である—冷静でない	.09	-.08	.22	.75	.29	.70
8	自己顯示欲が強い—自己顯示欲が弱い	.26	-.06	-.57	.08	.01	.41
9	男らしい—男らしくない	.42	.18	-.18	.61	-.34	.73
10	おしゃべりな—おしゃべりでない	.06	-.16	-.75	-.19	.15	.65
11	攻撃的—攻撃的でない	.17	-.39	-.47	.18	-.27	.51
12	思いやりのない—思いやりのある	.14	-.87	-.12	.23	-.09	.85
13	細かいことを気にする—細かいことを気にしない	-.71	-.22	.26	-.39	-.05	.77
14	人づきあいが上手—人づきあいが下手	.15	.14	-.74	.13	.16	.64
15	頭が良い—頭が悪い	-.25	-.21	-.08	.63	-.09	.52
16	裏表がある—裏表がない	.21	-.51	-.28	-.00	.44	.58
17	意地が悪い—意地が悪くない	.01	-.68	-.01	-.00	.26	.53
18	強引—強引でない	.64	-.31	-.28	-.10	.01	.60
19	内省的—内省的でない	-.76	.13	-.12	-.02	-.07	.61
20	素朴—素朴でない	-.09	.39	.16	-.02	-.69	.67
寄与率	$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	17.5	16.2	14.4	10.2	7.0	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V
(1)	個人的親しみやすさ	.11	-.56 **	.42 *	.03	-.04
(2)	社会的望ましさ	.54 **	.03	-.42 *	-.27	.36 *
(3)	力本性	-.49 **	-.05	.33	-.25	-.10

表4-10 M11の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因子	I	II	III	IV	h ²
		自信家	一般的評価	陰うつさ	腰の低さ	
1	明るい—暗い	.05	.12	.82	.32	.79
2	信頼できる—信頼できない	-.03	-.80	-.01	-.27	.71
3	自分勝手—自分勝手じゃない	-.16	.59	.23	.30	.51
4	無礼—礼儀正しい	-.31	.70	-.05	.42	.76
5	物わかりがよくない—物わかりがよい	.36	.53	-.36	.14	.56
6	楽しい—つまらない	-.15	-.15	.88	.09	.82
7	す直—す直じゃない	.55	-.25	.11	-.48	.60
8	やさしい—冷たい	.46	-.40	-.07	-.34	.48
9	かわいい—かわいくない	.07	-.27	.76	-.39	.81
10	自信家—自信のない	-.92	.23	.15	.06	.93
11	ごうまん—腰の低い	-.55	.40	.12	.53	.76
12	広い視野を持つ—視野がせまい	-.79	-.10	.13	.09	.66
13	しんが強い—しんが弱い	-.69	.28	.14	-.14	.60
14	遠慮しない—遠慮がちな	-.65	.46	.25	.35	.82
15	気がきかない—気がきく	.11	.67	-.09	-.23	.53
16	思いやりがある—思いやりがない	.40	-.72	.13	-.18	.72
17	頭の回転が早い—頭の回転がおそい	-.74	-.22	-.06	.12	.61
18	華やか—地味	-.36	.24	.75	.16	.77
19	相手の気持を考えない—相手の気持を考える	-.49	.72	.04	.29	.84
20	口うるさい—口うるさくない	-.03	.17	.17	.73	.59
寄与率	$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	22.8	21.1	14.9	10.7	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV
(1)	個人的親しみやすさ	-.55 **	.52 **	-.28	.08
(2)	社会的望ましさ	.11	.40 *	.39 *	.29
(3)	力本性	.61 **	.08	-.25	.08

暗黙裡の性格観に関する研究 (II)

表4-11 M12の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度		因子	I 理性的	II 横柄さ	III 女々しさ	IV 〈解釈不能〉	h ²
1	知的	な—無知	-.89	.11	.01	.15	.83
2	自信過剰	の—自信の	.30	-.91	-.06	-.11	.93
3	しつこい	—あっさりした	.49	-.40	-.39	-.24	.61
4	要領が良い	—要領が悪い	-.24	-.67	.00	-.07	.52
5	やさしい	—厳しい	.14	.74	-.16	.17	.62
6	ひかえめ	な—凶々しい	-.50	.77	.06	.19	.89
7	しつかりした	—いい加減な	-.71	-.12	-.01	.04	.51
8	きどった	—きどりの	.49	-.67	-.16	-.03	.71
9	男らしい	—男らしくない	-.10	.06	.88	.03	.79
10	筋の通った	—でたらめな	-.71	.16	.16	.10	.56
11	読みが深い	—考えの	-.88	.24	-.02	.04	.84
12	傷つきやすい	—傷つきにくい	-.20	.80	-.22	-.19	.76
13	単純	な—複雑な	.70	-.31	-.03	.55	.88
14	いくじのない	—いきな	.14	-.06	-.86	.06	.77
15	にぶ	い—するどい	.85	-.04	-.04	.00	.72
16	人を傷つけやすい	—人を傷つけない	.39	-.68	-.17	.17	.66
17	タフ	な—弱い	.10	-.41	.68	-.13	.65
18	つっぱった	—普通の	.42	-.37	.28	-.35	.51
19	幼稚	な—大人びた	.66	-.22	-.16	.26	.58
20	身持ちのよい	—身持ちの悪い	-.22	.51	-.09	.56	.63
寄与率		$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	27.8	24.7	12.1	5.3	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV
(1)	個人的親しみやすさ	.31	-.60 **	-.53 **	-.14
(2)	社会的望ましさ	.67 **	-.45 *	.12	-.03
(3)	力本性	.21	.63 **	-.54 **	.23

表4-12 M15の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度		因子	I 押しの強さ	II 誠実さ	III 温厚さ	IV 〈解釈不能〉	V 〈解釈不能〉	h ²
1	信頼がある	—信頼がない	-.15	-.53	-.16	.11	-.67	.79
2	ひょうきんな	—ひょうきんでない	-.32	.15	-.21	-.03	-.66	.60
3	人生観がある	—人生観がない	-.69	.03	-.18	-.23	-.16	.58
4	人に思いやりがある	—人に思いやりがない	-.08	-.31	-.77	.39	-.24	.90
5	強い	—弱い	-.76	.10	.05	.31	-.10	.70
6	やさしい	—やさしくない	.01	-.12	-.78	.42	-.41	.97
7	ひらきなおりがうまい	—ひらきなおりがへた	-.86	.09	-.06	.19	-.21	.83
8	従順である	—従順でない	-.08	-.20	-.48	.03	.03	.28
9	ものわかりがよい	—ものわかりが悪い	.12	-.27	-.65	.22	-.25	.62
10	まじめである	—不まじめである	.28	-.76	-.29	-.02	-.06	.74
11	努力をする	—努力をしない	.20	-.77	-.30	.07	-.13	.75
12	責任感がある	—無責任である	.08	-.82	-.31	-.04	-.07	.78
13	おくびょうでない	—おくびょうである	-.90	.13	.10	-.07	.01	.84
14	やることはやる	—だらしない	.03	-.78	-.10	.03	.17	.65
15	ひかえめだ	—でしゃばりだ	.14	-.27	-.20	.67	.13	.61
16	運動ができる	—運動ができない	-.37	.14	-.00	.53	-.33	.55
17	男ゆらしい	—男ゆらしくない	-.12	.18	-.30	.61	-.10	.52
18	うそをつかない	—うそをつく	.14	-.29	-.53	.04	.07	.38
19	自分をこころす	—自分をこころさない	-.16	-.47	-.33	.50	.05	.61
20	勝負強い	—勝負弱い	-.74	.05	.22	.11	-.39	.76
寄与率		$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	18.3	17.3	14.1	9.9	8.0	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V
(1)	個人的親しみやすさ	-.05	.21	.44 *	-.22	-.48 **
(2)	社会的望ましさ	-.21	.57 **	-.02	-.06	.33
(3)	力本性	.35	.32	.03	-.34	-.05

表4-13 M16の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因子	I			h ²
		一般的 評 価	II 軽躁性	III 謙虚さ	
1	親 切 な - 不 親 切 な	-.73	-.29	-.36	.75
2	や さ し い - や さ し く な い	-.84	-.08	-.30	.81
3	ひ ょ う き ん な - ひ ょ う き ん で な い	.10	-.81	-.00	.67
4	責 任 感 の あ る - 責 任 感 の な い	-.64	.18	-.32	.55
5	楽 し そ う な - 楽 し く な い よ う な	-.33	-.77	.10	.71
6	た よ り が い の あ る - た よ り が い の な い	-.81	.05	-.23	.71
7	思 い や り の あ る - 思 い や り の な い	-.80	-.30	-.40	.89
8	愉 快 な - 愉 快 で な い	-.09	-.92	-.07	.86
9	利 己 的 な - 利 己 的 で な い	.40	-.03	.72	.68
10	恥 知 ら ず の - 恥 を 知 っ て い る	.25	-.62	.51	.71
11	欲 張 り の - 欲 張 り で な い	.41	-.30	.64	.67
12	お お ら か な - お お ら か で な い	-.59	-.38	.03	.50
13	社 交 的 な - 非 社 交 的 な	-.05	-.85	.28	.81
14	愛 想 の な い - 愛 想 の あ る	.60	.53	.24	.71
15	自 分 勝 手 な - 自 分 勝 手 で な い	.63	-.26	.54	.75
16	明 る い - 暗 い	-.34	-.81	.21	.82
17	か わ い ら し い - か わ い ら し く な い	-.41	-.24	-.68	.69
18	出 し ば り な - 出 し ば り で な い	.29	-.11	.75	.66
19	目 だ ち た が り な - 目 だ ち た が り で な い	.11	-.28	.87	.85
20	た の も し い - た の も し く な い	-.58	-.16	-.30	.46
寄 与 率	$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	26.6	24.2	20.4	

共通因子	個別因子	I	II	III
(1) 個人的親しみやすさ		.60 **	.46 **	.53 **
(2) 社会的望ましさ		.44 *	-.66 **	.16
(3) 力 本 性		.24	.20	-.58 **

表4-14 F1の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因子	I							h ²
		神経質	II 親切・ 明 朗	III 力本性	IV 落ちつき のなさ	V とげとげ しさ	VI 調子の よさ	VII <解釈 不能>	
1	の ん き - あ わ て も の	.18	-.06	.22	.74	.01	-.06	-.02	.63
2	社 交 的 - 非 社 交 的	-.03	-.15	-.12	-.00	-.06	-.82	.01	.42
3	神 経 質 - 神 経 質 で な い	-.83	.03	.01	-.02	-.02	.03	-.08	.69
4	真 面 目 - 不 真 面 目	-.68	-.09	-.06	-.01	-.18	.42	-.08	.70
5	お と な し い - に ぎ や か な	-.37	.21	.51	.31	-.06	.47	-.15	.79
6	外 向 的 - 内 向 的	.47	-.02	-.51	-.23	.04	-.47	-.09	.77
7	思 い や り が あ る - 思 い や り が な い	-.33	-.53	.05	.11	.23	-.31	-.01	.55
8	業 直 - 業 直 で な い	.01	-.42	.18	.05	.21	-.12	.34	.39
9	控 え 目 - で し ば り	-.66	-.06	.38	.09	.05	-.12	-.18	.64
10	快 活 - 陰 気	.35	-.52	-.45	-.27	.06	-.30	.31	.86
11	おもしろい - つまらない	.12	-.63	-.27	-.11	.14	.08	-.03	.53
12	たよりない - たよりがゆある	.57	.46	.15	-.02	.09	.00	.46	.78
13	とげとげしい - とげとげしくない	.01	.08	.11	.04	-.97	-.16	-.08	.99
14	落ちついている - 落ちつきがない	-.21	.14	-.15	.79	-.11	.26	-.04	.80
15	行 動 的 - 行 動 的 で な い	-.04	.03	-.65	-.05	.05	-.06	.08	.44
16	親 切 - 不 親 切	-.24	-.63	.18	.04	-.10	-.13	-.02	.51
17	短 気 - 気 が 長 い	-.11	.06	-.07	-.36	-.34	.16	-.12	.31
18	気 が 強 い - 気 が 小 さ い	-.08	-.01	-.68	.02	.01	-.06	-.23	.52
19	過 敏 - 鈍 感	-.84	-.04	-.20	-.17	-.02	-.06	.33	.88
20	おねねしている - あっさりしている	-.20	.54	.13	.11	-.57	.26	.31	.86
寄 与 率	$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	17.1	10.7	10.5	8.1	8.0	7.3	4.0	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V	VI	VII
(1) 個人的親しみやすさ		.01	.61 **	-.04	-.01	.09	.64 **	-.11
(2) 社会的望ましさ		.67 **	-.18	-.05	-.00	-.05	-.38 *	.27
(3) 力 本 性		-.22	.21	.69 **	.33	-.06	.14	.00

暗黙裡の性格観に関する研究 (II)

表4-15 F2の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度		因子	I 気やすさ	II 思いやり	III 大胆さ	IV 人間の大きさ	V 一徹さ	h^2
1	面白くない	面白くない	-.74	.21	-.34	.22	.14	.78
2	情にあつく	情にあつく	-.30	.01	.19	-.55	-.38	.57
3	繊細でない	繊細でない	.21	-.43	.71	-.11	-.36	.87
4	とらわれがある	とらわれがない	.26	-.48	.40	-.03	.03	.46
5	思いやりが深い	思いやりに欠ける	-.18	-.70	.34	-.26	-.09	.71
6	大胆でない	大胆でない	-.08	.12	-.91	-.05	-.17	.89
7	一徹でない	一徹でない	.08	-.03	-.23	.00	-.88	.83
8	明るくない	明るくない	-.84	-.13	-.08	-.05	-.07	.74
9	やさしくない	やさしくない	-.35	-.51	.39	-.34	-.00	.64
10	自己中心的でない	自己中心的でない	-.22	.13	-.15	.58	-.11	.43
11	積極的でない	積極的でない	-.53	.09	-.25	.04	-.25	.42
12	落ちている	浮わっている	.47	-.07	-.06	-.76	.17	.83
13	気がかりやすい	気分が安定している	.07	-.63	.06	.05	.06	.41
14	包容力がある	包容力がない	-.19	-.03	-.08	-.54	-.10	.34
15	思慮深い	思慮深くない	.37	-.49	.02	-.05	-.05	.38
16	親切でない	親切でない	-.33	-.87	.15	-.04	.12	.91
17	人あたりがいい	人あたりがよくない	-.77	-.21	.13	-.23	.31	.80
18	気さく	気むずかしい	-.86	.09	-.07	-.04	.04	.75
19	敏感	鈍い	.13	-.54	.20	-.13	-.35	.49
20	気が強い	気が弱い	-.18	.29	-.66	.08	-.29	.64
寄与率		$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	19.2	15.4	13.0	9.2	7.7	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V
(1)	個人的親しみやすさ	.61 **	.40 *	-.15	.34	.03
(2)	社会的望ましさ	-.66 **	.34	-.27	.45 *	.08
(3)	力本性	.45 *	-.18	.57 **	.07	.11

表4-16 F6の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度		因子	I 目立ちたがり	II 理知性	III 安定性	IV 冷たさ	V 素直さ	h^2
1	軟かな	融通のきかない	-.68	-.27	-.24	.24	-.10	.66
2	大らか	こせこせした	-.73	.17	.26	.22	-.01	.68
3	理知的	情熱的	.18	-.83	-.24	-.32	-.02	.88
4	積極的	消極的	-.96	.04	-.04	.10	.07	.94
5	やさしい	やさしくない	-.08	.10	-.03	.95	-.14	.94
6	理想主義的	現実主義的	-.06	.03	.41	.24	-.18	.26
7	元気	元気がない	-.83	.34	.10	.11	.14	.85
8	いねい	乱暴	.50	.06	-.42	-.22	-.27	.55
9	神経質	のんびりした	.61	-.22	-.51	-.22	-.04	.73
10	暗い	明るい	.72	-.34	-.19	-.16	.06	.70
11	あたたかい	冷たい	-.38	.11	.08	.58	-.08	.51
12	あけっぴろげ	閉ざしがちな	-.80	.16	.41	.16	.05	.86
13	気分がかりやすい	気分が安定した	-.03	.17	.81	-.21	-.02	.73
14	自信のない	自信のある	.73	.06	.04	.04	-.50	.79
15	素直	素直でない	.07	-.15	.10	.18	-.49	.31
16	控え目	目立ちたがり	.77	-.06	-.18	.03	-.42	.81
17	思慮深い	思慮の浅い	.07	-.87	-.14	.15	-.26	.87
18	まじめ	不まじめ	.23	-.57	-.46	-.17	-.38	.76
19	陽気	陰気	-.85	.33	-.09	.01	-.09	.85
20	くどい	あっさりした	.28	-.48	.28	-.13	.23	.46
寄与率		$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	32.8	13.0	10.1	9.1	5.6	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V
(1)	個人的親しみやすさ	.32	-.23	.09	-.32	.70 **
(2)	社会的望ましさ	-.44 *	.68 **	.26	.08	.07
(3)	力本性	.86 **	.17	.16	.07	-.17

表4-17 F7の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因子	I	II	III	IV	V	VI	h ²
		ユーモラス	しっかり者	快骨さ	誠実さ	見栄っぱり	<解釈不能>	
1	優しーきつ	-.41	-.14	.50	-.15	.01	.14	.48
2	男らしいー女らしい	-.00	-.17	-.70	-.05	.09	.05	.53
3	明るー暗い	-.80	.18	-.29	-.05	-.08	-.01	.76
4	ユーモアのあるーきまじめな	-.86	-.11	.17	-.15	.01	-.25	.87
5	あたたかいー冷たい	-.70	-.23	.06	-.23	.30	.01	.70
6	しっかりしたーだらしない	.02	-.92	-.04	-.06	.13	.10	.88
7	見栄っぱりなー割り気のない	-.04	.18	.04	.10	-.76	-.06	.63
8	かたーやわらかい	.86	-.04	-.17	.15	.16	-.09	.82
9	正直なー不正直な	-.22	-.01	-.16	-.84	.08	-.03	.79
10	誠実なー不誠実な	-.16	-.22	.16	-.78	.03	.09	.72
11	気がきくー鈍感な	-.40	-.62	.21	-.22	-.23	-.01	.69
12	自己中心的なー他者中心的な	.18	.73	-.29	.27	-.25	.01	.78
13	知的なー知的でない	.35	-.62	-.15	.07	-.15	-.30	.64
14	若々しいー年寄りっぽい	-.47	-.26	.29	-.13	-.39	.10	.55
15	サッパリしたーしつこい	-.59	-.26	.16	-.07	-.08	.36	.58
16	常識的なー非常識な	-.12	-.60	.02	-.05	.16	.45	.61
17	スポーツ好きなースポーツ好きでない	-.73	-.11	-.24	-.14	-.13	.47	.86
18	清深なー不潔な	-.20	-.63	.14	-.01	-.50	.31	.80
19	個性的なー個性のない	-.56	.12	-.57	-.02	.03	-.50	.90
20	頼りがいのあるー頼りがいのない	-.07	-.83	-.36	-.08	.09	.06	.85
寄与率	$\sum a_i^2/N \times 100$ (%)	23.2	20.0	8.7	8.2	6.7	5.6	

共通因子	個別因子					
	I	II	III	IV	V	VI
(1) 個人的親しみやすさ	.49 **	.24	-.49 **	.52 **	.06	-.26
(2) 社会的望ましさ	-.58 **	.58 **	-.00	-.06	-.18	-.19
(3) 力本性	.49 **	.41 *	.61 **	.08	.04	.20

表4-18 F8の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度	因子	I	II	III	IV	h ²
		しっかり者	思いやり	陰気	批判がましき	
1	理性的ー理性的でない	-.84	-.18	-.02	.10	.75
2	しっかりしているーしっかりしていない	-.78	-.12	.35	-.09	.75
3	堂々としているーこせこせしている	-.67	.05	.52	.06	.72
4	頼りがいがあるー頼りがいがない	-.45	-.35	.60	-.09	.69
5	思いやりがあるー思いやりがない	-.18	-.74	.19	.14	.64
6	やさしいーきつ	-.04	-.83	.03	.29	.77
7	面倒見がよいー面倒をみない	-.26	-.64	.57	-.19	.84
8	よく気がつくー気がつかない	-.61	-.23	.50	.11	.68
9	協調性がないー協調性がある	.48	.49	-.48	-.13	.71
10	自己中心的であるー自己中心的でない	.63	.49	-.11	-.44	.85
11	主体性があるー主体性がない	-.78	-.12	.15	.01	.64
12	明るー暗い	-.04	-.45	.62	.21	.64
13	批判的ー批判的でない	-.05	.28	-.03	-.82	.76
14	心が広いー心が狭い	-.23	-.15	.65	.38	.64
15	努力家ー余り努力しない	-.91	-.16	.12	.15	.89
16	忍耐強いー忍耐強くない	-.71	-.26	-.06	.30	.66
17	あたたかいー冷たい	-.19	-.65	.15	.05	.48
18	考えが狭いー考えが広い	.30	.57	-.34	-.51	.79
19	活発であるー活発でない	.03	-.06	.67	-.14	.48
20	感情的になりすぎるー感情的になりすぎない	.28	.01	.06	-.38	.23
寄与率	$\sum a_i^2/N \times 100$ (%)	26.3	17.5	15.3	9.1	

共通因子	個別因子			
	I	II	III	IV
(1) 個人的親しみやすさ	.32	.71 **	-.44 *	-.41 *
(2) 社会的望ましさ	.81 **	-.19	.20	-.05
(3) 力本性	.39 *	.07	-.58 **	.33

暗黙裡の性格観に関する研究 (II)

表4-19 F9の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度		因子		I	II	III	IV	h ²
		思いやり	社交家	堅実さ	粘着性			
1	優しい	いきびしい		-.79	-.17	.37	.15	.82
2	親切な	不親切ない		-.74	-.32	-.41	.11	.82
3	暖かい	冷たい		-.88	-.15	-.19	-.02	.84
4	真面目な	不真面目ない		-.41	.13	-.81	-.01	.84
5	誠実な	不誠実ない		-.74	-.05	-.51	.09	.82
6	陽気な	陰気ない		-.29	-.80	.09	.35	.86
7	外向的な	内向的な		-.13	-.93	.02	.09	.90
8	楽天的な	神経質ない		-.39	-.55	.52	.02	.73
9	思いやりのある	思いやりがない		-.84	-.17	-.28	-.03	.81
10	素直な	ひねくれた		-.85	-.21	.09	.17	.81
11	情緒の豊かな	情緒の乏しい		-.73	-.13	-.22	.30	.68
12	利己的な	非利己的な		.85	.02	.33	-.06	.84
13	しっかりした	弱々しい		-.12	-.57	-.51	-.14	.61
14	社交的な	非社交的な		-.21	-.94	.04	.05	.94
15	心の広い	心の狭い		-.73	-.30	.17	.48	.89
16	さっぱりした	ねちねちした		-.39	-.36	.14	.49	.53
17	意志の強い	意志の弱い		.03	-.21	-.79	-.17	.69
18	行動力のある	行動力がない		-.02	-.72	-.47	.08	.76
19	堅実な	いかげんない		-.25	.12	-.84	.14	.81
20	理知的な	理知的でない		-.21	-.14	-.65	.82	.86
寄与率		$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)		32.3	20.6	20.3	6.1	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV
(1)	個人的親しみやすさ	.86 **	.34	-.07	-.30
(2)	社会的望ましさ	.30	-.53 **	.70 **	.18
(3)	力本性	.12	.88 **	.33	.08

表4-20 F11の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度		因子		I	II	III	IV	V	VI	h ²
		あたたかさ	真面目さ	心の広さ	おしゃべり	実行力	率直さ			
1	謙虚	謙虚さに欠ける		-.37	-.49	-.20	.49	.01	-.08	.66
2	自然	然不自然でない		-.40	.08	-.25	.07	.13	-.65	.67
3	責任感がある	責任感がない		-.29	-.59	-.40	.05	-.32	-.34	.81
4	思いやりがある	思いやりがない		-.71	-.34	-.28	.14	-.14	.00	.73
5	努力家である	努力をしない		.02	-.77	-.03	-.08	-.00	.09	.61
6	ユーモアがある	ユーモアがない		-.12	-.06	-.88	.06	-.00	-.21	.84
7	率直である	率直でない		-.25	-.02	-.03	-.05	-.39	-.70	.71
8	誠実である	誠実でない		-.72	-.24	-.06	.07	.06	-.26	.66
9	暖かい	冷たい		-.92	.11	-.15	-.03	-.10	-.06	.90
10	自分勝手である	人の立場を考える		.18	.82	.58	-.24	.17	-.14	.86
11	実行力に富む	実行力に欠ける		.05	.03	.02	-.10	-.64	-.33	.53
12	強い	弱い		.01	-.21	-.07	-.04	-.90	.09	.86
13	常識に欠ける	常識をわきまえている		.13	.65	.41	-.12	.07	.43	.81
14	まじめ	不まじめ		.10	-.87	.26	.12	-.11	.04	.87
15	親切	不親切		-.87	-.04	.16	-.01	.06	-.29	.86
16	いばっている	いばらない		.55	-.16	.22	-.27	-.36	.13	.60
17	世当たりがうまい	世当たりが下手		.05	.14	.13	-.53	.07	-.01	.32
18	内向性	外向性		-.04	.13	.02	.76	.07	.07	.60
19	話しにくい	話しやすい		.58	-.23	.51	.16	-.09	-.03	.69
20	おしゃべり	無口		-.07	.08	-.07	-.81	-.19	.09	.71
寄与率		$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)		19.0	15.5	10.5	10.0	8.8	8.0	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V	VI
(1)	個人的親しみやすさ	.47 **	.03	.51 **	.14	-.40 *	-.24
(2)	社会的望ましさ	-.10	.66 **	-.15	-.48 **	.35	-.26
(3)	力本性	-.07	.14	.06	.51 **	.60 **	-.26

表4-21 F12の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度		因子	I 思いやりの なさ	II でしゃばり	III 一般的 評価	IV 快活性	V 個性の 強さ	VI 気長 のさ	h ²
1	無	口—おししゃべり	.08	.96	.01	.22	-.19	.23	.99
2	おとなしい	—うるさい	.07	.79	-.20	.26	-.05	.11	.76
3	男(女)らしい	—男(女)らしくない	.81	.11	-.12	-.11	-.09	.02	.70
4	たよりがいがある	—たよりがいがない	.68	.07	-.25	-.17	-.25	.10	.62
5	やさしい	—やさしくない	.78	-.17	-.22	-.26	.10	-.21	.78
6	まじめ	—ふまじめ	.28	.26	-.84	.29	-.13	.04	.95
7	おだやか	—はげしい	-.06	.65	-.26	.07	.14	-.31	.61
8	明る	い—暗	.22	-.24	-.09	-.54	-.22	-.49	.69
9	思いやりがある	—思いやりのない	.79	-.00	-.31	-.06	.01	.11	.73
10	謙	虚—な—でしゃばり	.10	.76	-.08	-.07	.21	-.03	.65
11	自分勝手	な—人のことを考える	-.61	-.22	.51	-.04	.17	.15	.73
12	冷	た—い—あたたかい	-.53	-.25	.32	.37	.01	.26	.66
13	気が強い	—気が弱い	-.03	-.34	-.05	-.33	-.57	.22	.59
14	しっかりしている	—しっかりしていない	.25	.02	-.54	-.48	-.20	.38	.77
15	責任感がある	—無責任	.44	.09	-.76	-.18	-.14	.03	.83
16	自分をもっている	—自分をもっていない	.18	.05	-.22	.03	-.88	-.08	.87
17	短	気—気が長い	.01	-.01	-.02	.03	-.03	.68	.47
18	陽	気—陰	.23	-.20	-.10	-.86	-.04	-.08	.85
19	きちんとしている	—だらしない	.29	.14	-.82	-.19	-.06	-.09	.82
20	活	発—不活発	.41	-.39	.18	-.50	.02	.14	.63
寄与率		$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	18.6	15.9	15.2	10.7	7.2	6.3	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V	VI
(1)	個人的親しみやすさ	-.70 **	-.01	.37 *	.10	-.35	.17
(2)	社会的望ましさ	-.12	-.71 **	.38 *	-.24	.30	-.21
(3)	力本性	-.24	.54 **	.21	.31	.35	-.25

表4-22 F13の因子構造と基本3次元との対応

個別尺度		因子	I 真摯な 態度	II 心の 広さ	III の 弱さ	IV 自意識 過剰	V 感情的	VI 責任感 の強さ	h ²
1	誠	実—不誠実	-.70	.12	-.15	.15	-.06	-.32	.65
2	お	お—ら—か—神—経—質	.09	-.84	.10	.19	-.05	.33	.87
3	現実をまっすぐに見つめる	—現実から目をそらす	-.71	.19	.09	-.07	-.21	.06	.61
4	真	摯—いいかげん	-.70	.20	.14	-.01	-.24	-.30	.69
5	小	心—度胸がある	-.13	.46	-.42	.13	.10	-.37	.57
6	個性がない	—個性的	.28	.04	-.54	.45	.22	.01	.62
7	世間体を気にする	—世間体を気にしない	-.04	.18	-.87	-.06	-.21	.05	.84
8	自意識過剰	—自意識過剰でない	.08	.09	-.13	-.71	-.11	.08	.55
9	自分自身を表に出さない	—自分自身を表に出す	.25	.27	-.04	.28	.61	-.10	.60
10	責任感強い	—無責任	-.13	.18	.08	.07	-.06	-.67	.51
11	理性的	—感情的	.22	.10	.11	.13	.87	.19	.88
12	信頼できる	—信頼できない	-.70	-.28	-.15	-.19	.41	-.26	.86
13	物事を真剣にうけとめる	—物事を真剣にうけとめない	-.73	-.28	.32	-.00	-.17	-.35	.87
14	営利主義的	—営利主義的でない	.71	-.00	-.07	-.26	.27	.07	.65
15	人間を大切にしない	—人間を大切にする	.77	.07	.14	-.01	.02	-.12	.63
16	自己誇示的	—自己誇示的でない	.28	-.12	.35	-.75	-.12	-.02	.80
17	信念をもって生きている	—何となく生きている	-.64	.15	.54	.04	-.11	-.18	.76
18	ほ	ほ—ら—か—陰—う—つ	-.15	-.74	-.14	-.41	-.35	.11	.89
19	さっぱりしている	—ねちっこい	.07	-.80	.14	.04	-.02	-.05	.67
20	自己中心的	—他人本位	.69	.04	-.08	-.38	-.02	-.42	.81
寄与率		$\sum a_i^2 / N \times 100$ (%)	24.1	12.8	9.7	9.4	8.9	7.0	

共通因子	個別因子	I	II	III	IV	V	VI
(1)	個人的親しみやすさ	.40 *	.52 **	.38 *	.05	.17	-.03
(2)	社会的望ましさ	.11	-.25	-.09	-.34	-.32	.42 *
(3)	力本性	-.01	.12	-.47 **	.44 *	.18	.09

暗黙裡の性格観に関する研究 (II)

表 4-23 F 14の因子構造と基本 3 次元との対応

個別尺度	因子						h ²
	I 人間的 面白さ	II デリカ シー	III 大雑把	IV 積極性	V 飾り気 のなさ	VI 皮肉屋	
1 飾らない—飾る	.09	-.04	-.04	-.08	-.72	.22	.58
2 努力家—努力家でない	-.15	-.48	.33	.30	-.23	-.26	.57
3 細かいことを気にしない—細かいことを気にする	-.03	.10	-.87	-.01	-.10	.17	.81
4 デリカシーあり—デリカシーなし	-.47	-.60	.05	.49	-.20	-.00	.87
5 行動的—行動的でない	-.06	.07	-.16	-.82	.01	-.04	.70
6 優しい—優しくない	-.21	-.76	.15	.06	.06	.23	.70
7 おもしろい—つまらない	-.89	-.20	.06	-.07	-.04	.13	.86
8 賢い—賢くない	.08	-.62	.25	.18	-.55	-.24	.85
9 楽しい—楽しくない	-.84	-.32	.08	.05	.06	.01	.83
10 明るい—暗い	-.69	.25	-.26	-.13	.18	-.00	.65
11 センスがいい—センスが悪い	-.41	-.55	-.07	.13	-.05	.02	.50
12 陰険でない—陰険	-.50	-.03	-.07	-.20	-.04	.63	.70
13 気持がいい—気持が悪い	-.56	-.19	-.15	-.01	-.64	.09	.80
14 頼もしい—頼もしくない	.11	-.54	-.31	-.10	-.33	.11	.53
15 厳しい—厳しくない	.21	-.45	.68	-.01	-.40	.08	.87
16 思いやりがある—思いやりがない	-.19	-.26	.03	.22	-.31	.54	.54
17 皮肉屋でない—皮肉屋	.05	.11	-.53	-.10	-.13	.71	.83
18 慣れ慣れしくない—慣れ慣れしい	.20	-.15	-.16	.28	-.40	.42	.51
19 サバサバしてる—サバサバしてない	-.03	-.22	-.73	-.34	-.15	.09	.72
20 積極的—消極的	-.07	.12	-.06	-.96	-.06	.03	.95
寄与率 $\sum a_i^2/N \times 100$ (%)	15.8	13.9	12.5	11.6	9.8	8.4	

共通因子	個別因子					
	I	II	III	IV	V	VI
(1) 個人的親しみやすさ	.63**	.29	.09	-.16	.08	-.27
(2) 社会的望ましさ	-.17	.65**	-.33	-.26	.23	.10
(3) 力本性	-.15	.35	.06	.59**	.25	.01

表 4-24 F 15の因子構造と基本 3 次元との対応

個別尺度	因子					h ²
	I 堅実さ	II 思い やり	III 要領の 悪さ	IV せっかち	V うわさ 好き	
1 あたたかい—冷たい	.19	-.69	.02	.10	.19	.57
2 落ちつきがある—落ちつきがない	-.67	-.10	.16	.48	.04	.72
3 話を真剣に聞く—話を真剣に聞かない	-.25	-.75	.06	-.13	.12	.66
4 思いやりがある—思いやりがない	-.10	-.90	.13	-.17	.08	.88
5 話題が豊かである—話題に乏しい	-.21	-.08	.64	-.33	-.45	.77
6 ユーモアがある—ユーモアがない	.24	-.30	.60	-.18	-.07	.55
7 ささいなことにこだわらない—ささいなことにこだわる	.53	-.12	.33	-.07	.27	.48
8 知的である—知的でない	-.80	.08	.04	-.11	-.02	.66
9 要領がいい—要領が悪い	-.20	.32	.69	.15	-.04	.64
10 明るい—暗い	.15	-.17	.55	-.07	.39	.51
11 軽薄である—慎重である	.78	.01	.25	-.25	.06	.74
12 努力家である—努力家でない	-.85	-.08	-.07	-.15	.16	.78
13 頼りがいがある—頼りにならない	-.63	-.24	.33	.02	.10	.58
14 のんびりしている—せかせかしている	.03	.07	-.13	.94	-.09	.92
15 意志が強い—意志が弱い	-.82	-.08	-.03	.10	-.07	.70
16 かげ口を言う—かげ口を言わない	-.03	.08	.08	.14	-.62	.41
17 気分屋である—気分屋でない	.15	.33	-.03	-.23	-.79	.81
18 自尊心が高い—自尊心が低い	-.55	.66	-.05	-.12	.05	.76
19 自分勝手である—自分勝手でない	.24	.65	.14	-.18	-.15	.56
20 派手である—地味である	.26	.20	.44	-.47	-.20	.56
寄与率 $\sum a_i^2/N \times 100$ (%)	22.6	16.1	10.7	9.0	8.1	

共通因子	個別因子				
	I	II	III	IV	V
(1) 個人的親しみやすさ	-.25	.67**	-.29	-.20	-.05
(2) 社会的望ましさ	.82**	.07	.17	-.22	-.06
(3) 力本性	.32	-.25	-.42*	.55**	-.04

表 4-25 F 16の因子構造と基本 3次元との対応

個別尺度	因子		I	II	III	IV	V	VI	h ²
	思いやり	軽薄さ	思いやり	軽薄さ	しつかり者	力本性	頼りなさ	危険・傲慢	
1 穏やか—激しい	-.12	.16	-.06	.97	.09	.03	.99		
2 やさしい—やさしくない	-.72	-.05	-.12	.06	-.01	-.00	.54		
3 まじめ—ふまじめ	.16	.51	-.51	.31	.11	.04	.65		
4 明るい—暗い	-.19	-.76	-.10	-.13	-.13	.09	.66		
5 素直—卑屈	-.58	-.41	.17	-.05	.09	.25	.60		
6 思いやりがある—思いやりのない	-.76	-.01	-.42	.11	-.01	-.12	.78		
7 よく気がつく—気がつかない	-.12	-.09	-.84	.06	.09	.21	.78		
8 責任感のある—無責任な	-.13	.46	-.64	.08	.21	-.18	.72		
9 包容力のある—包容力のない	.05	.09	-.07	-.06	.56	-.14	.35		
10 ひかえめ—でしゃばり	-.00	.56	.04	.44	-.15	.24	.55		
11 暖かい—冷たい	-.75	-.18	-.02	-.03	-.23	.20	.69		
12 頼りになる—頼りにならない	.09	-.05	-.59	-.09	.74	.01	.90		
13 気どった—気どらない	.70	-.16	-.38	.05	-.19	.11	.72		
14 陰険—陰険でない	.49	.17	-.46	-.04	-.13	-.52	.77		
15 ごうまん—謙虚な	.02	-.16	.15	-.13	.13	-.55	.39		
16 親しみやすい—親しみにくい	-.40	-.62	.11	-.18	-.05	.09	.59		
17 軽薄—軽薄でない	-.23	-.67	.37	-.13	-.04	-.29	.73		
18 派手—地味	.27	-.65	-.01	-.11	.15	-.11	.54		
19 さわやか—じめじめした	-.39	-.38	.15	.08	.54	.24	.68		
20 活動的—非活動的	-.06	-.32	.11	-.71	.24	-.12	.57		
寄与率 $\sum a_i^2/N \times 100$ (%)	16.5	16.0	12.6	9.7	7.4	5.3			

個別因子	I	II	III	IV	V	VI
(1) 個人的親しみやすさ	.67**	.39*	.12	-.09	-.03	-.20
(2) 社会的望ましさ	-.12	-.66**	.52**	-.31	-.15	-.03
(3) 力本性	-.14	.26	.40*	.45*	-.35	.03

対応関係が示されている。これらは、次のような方法により求められた。すなわち、まず各被験者別に個別尺度資料の因子分析を実施した際、因子負荷行列と同時に因子得点行列をも算出した。ここでの因子得点は、ある個人のある次元上における31名のSPの布置（位置関係）を表わすものと考えることができる。次に、前述した共通尺度資料の被験者全体を合わせた因子分析から得られた因子得点より、個々の被験者内でみた基本3次元上でのSPの布置を考える。そして、これら両者間の積率相関係数（ $n = 31$ ）を算出することにより、個別尺度因子と基本3次元との対応を表わす指標とした。

表4-1～表4-25を通してみると、個別尺度法により抽出された全130因子のなかで、基本3次元のいずれとも有意な相関を示さないものが33因子（全体の約1/4）ある。しかし、これらの多くは、各因子の因子構造において寄与率が比較的低いマイナーな因子である。

他方、全体の約3/4にあたる97因子は、基本3次元と何らかの有意な相関をもっている。われわれは前報（林ら、1983）において、本研究とは異なった分析法に立脚して個別尺度因子を基本3次元の枠組から分類・整理することを試みたが、本研究の結果も、今後こうした方向での

検討をさらに重ねることにより、パーソナリティ認知に際して人が働かせる諸次元の内容を体系的に理解できる可能性を示している。

以下では、前述の共通尺度法に基づく分析においてユニークな認知構造をもつことが示唆された4名のうち、M15とF11をとりあげて若干の考察を加えておくことにする。

M15についてみると（表4-12）、まず第I因子のもつ意味内容がかなりユニークであることが目につく。すなわち、そこでは“おくびょうでない—おくびょうである”（-.90），“ひらきなおりがうまい—ひらきなおりがへた”（-.86），“強い—弱い”（-.76），“勝負強い—勝負弱い”（-.74），“人生観がある—人生観がない”（-.69）などの尺度が高い負荷を示していることから、一応「押しの強さ」と解釈した。しかし、勝負強さや人生観のあることが同方向で負荷している点は、どう理解したらよいのであろうか。また、この因子は基本3次元のいずれとも有意な相関を示していない。ちなみに個々の因子構造における第I因子が基本3次元と有意な相関をもたないケースは、この個人のみである。さらに、第IV因子および第V因子についても解釈が困難であり、

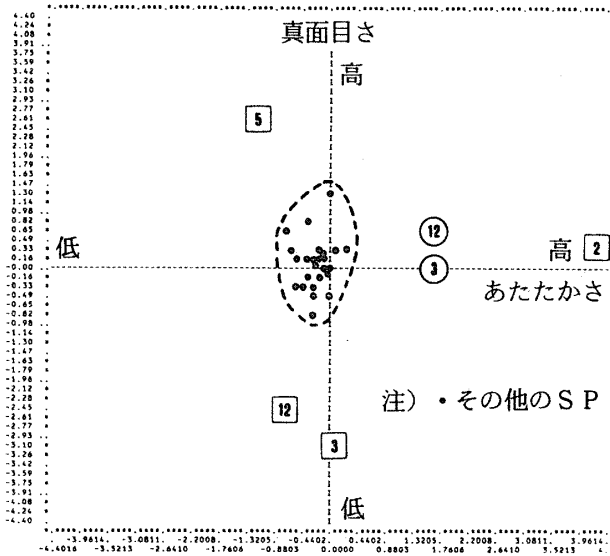


図11 個別尺度法に基づいて被験者F11が認知したSPの布置

M15がもつ認知構造のユニークさを裏づけている。

次に、F11についてみてみよう(表4-20)。この場合、各因子の解釈は比較的容易であり、基本3次元との対応についても意味内容からして納得のいく結果が得られている。しかしながら、個別尺度資料の因子分析から算出された因子得点によって各因子上におけるSPの布置をみると(図11)、そこに多くの被験者の場合とはやや異なった特徴を認めることができる。すなわち、この個人においては、各因子で弁別されるSPが少数の人間に限定されている。第I因子ではM2、F3、F12の3名、第II因子ではM3、M12、M15の3名が他のSPから区別されており、残り25名のSPについてはほとんど弁別的な認知がなされていない。このような個人は、Bieri, Rigney & Tripodi (1964) のいう認知次元内の分節度 (articulation)⁵⁾ が低い典型的なケースとしてとらえることができよう。

4 共通尺度因子と個別尺度因子の関係

ここでは、共通尺度法に基づいて各被験者ごとに抽出された諸因子と個別尺度法に基づく諸因子との間の関係

5) Bieri et al. (1964) によれば、個々人の認知構造の複雑性は、認知次元間の分化度 (differentiation) と次元内の分節度 (articulation) の両面からとらえることができる。これらを本研究の内容に則して考えると、分化度は各個人の認知構造を構成する次元の数 (因子数) に対応する。それに対して、分節度は各認知次元上において多数のSPが相互に弁別的に認知されている程度を表わすといえる。

について述べる。

まず、両方法から抽出された個々人の因子数の間には、有意な正の相関 ($r = .58, p < .05$) が認められた。表5によれば、両方法における因子数が完全に一致する者が10名、 ± 1 の範囲でズレている者が12名となっており、これら両ケースで被験者全体の88%を占める。こうした結果は、他者を多角的に認知できる能力と定義される認知的複雑性 (cognitive complexity) の一指標として、このような、個々人のパーソナリティ評定資料の因子分析から抽出される $E \geq 1.0$ の因子数を用いることの妥当性を支持している。

表5 因子数の相関表

		個別尺度法に基づく因子数					行和
		3	4	5	6	7	
共通尺度法に基づく因子数	7			1		1	2
	6			1	2		3
	5			3	5	1	9
	4	1	4	4	1		10
	3		1				1
列和		1	5	9	8	2	25

次に、各被験者ごとに、両方法から抽出された因子相互間の内容的対応を検討するため、2つの因子に対する因子得点からみたSPの布置の間の積率相関係数を算出した(たとえばM1の個人では、共通尺度資料から4因子、個別尺度資料から5因子が抽出されているので、 4×5 の相関行列が算出された)。表6には、各被験者における個別尺度因子のうち、当該個人における共通尺度因子のいずれかと1%水準で有意な相関 ($r \geq 0.45$) をもつ因子の数が示されている。これによれば、M7、M16、およびF8では、個別尺度法に基づいて抽出された因子のすべてが、共通尺度法に基づく因子と密接に対応していることがわかる。それに対して、M4およびF1では、個別尺度因子のうち、共通尺度因子と0.45以上の相関をもつものは半数未満になっている。

被験者全体を通してみると、両方法に基づいて抽出された諸因子の間には、内容的にかなりの対応があるといえる。すなわち、個別尺度法に基づいて抽出された全因子 (130因子) の65%に当たる85因子が、共通尺度因子と1%水準で有意な相関を示している。さらに、5%水準で有意な相関をもつものが24因子あり、共通尺度因子

表6 共通尺度因子と対応した
個別尺度因子の数

男性 (n=13)		女性 (n=12)	
M 1	4/5	F 1	3/7
M 2	3/5	F 2	3/5
M 4	2/7	F 6	3/5
M 5	3/5	F 7	4/6
M 6	4/5	F 8	4/4
M 7	4/4	F 9	3/4
M 8	5/6	F 11	3/6
M 9	3/6	F 12	3/6
M 10	4/5	F 13	4/6
M 11	3/4	F 14	3/6
M 12	3/4	F 15	4/5
M 15	3/5	F 16	4/6
M 16	3/3		
計	44/64	計	41/66

注) 分母: 各人ごとの個別尺度因子の総数
分子: 共通尺度因子と対応関係が認められた個別尺度因子の数

と有意な相関をまったく示さない個別尺度因子は、全体の16% (21因子) にすぎない。

今後の検討課題

本稿は、個々人がもつIPTを解明するための方法論を再吟味する目的で収集した資料のうち、共通尺度法と個別尺度法との比較に焦点を絞って基礎的検討を加えたものである。したがって、分析に使用された資料も限定されており、残された検討課題は多い。そこで以下では、今後われわれが順次報告していく予定である主要な課題についてまとめておくことにする。

(1) 個別尺度因子の分類・整理

本研究では、男女25名の被験者より全部で130の個別尺度因子が抽出された。これらの内容はかなりバラエティに富んでいるが、相互に意味内容が類似した因子も数多くみられる。そこで、類似した因子をまとめて、全因子を何らかの体系に分類・整理していくことが可能であろう。

この場合の1つの方法としては、因子得点による各因子上におけるSPの布置から全因子間の相関行列を算出

し、これを距離行列に変換したものをクラスター分析にかけることが考えられる。われわれの先の研究(林ら, 1983)では、各被験者ごとに評定したSPが異なっていたため、こうした方法を用いることが不可能であった。また、因子間相関行列をさらに因子分析することによって、これらを上位因子にまとめたり、全因子間の関係について把握することもできよう。ちなみに、前報(林ら, 1983)では、個別尺度因子間関係がGuttman (1954)のいうcircumplex構造を呈することが示唆されている。

いずれにせよ、今後、本研究で得られた個別尺度資料の詳細な分析を通して、先にわれわれが提唱したパーソナリティ認知の基本3次元説を、より精緻なものに発展させていきたいと考えている。

(2) IPTの個人差に関する分析

他者のパーソナリティ認知に際して、ある個人がどのような次元を重視するのか、その次元ウェイトのおき方によってIPTの個人差を分析することができる。こうした問題に関して、われわれは、これまで個人差を考慮した3相MDSとしてのINDSCALモデル(Carroll & Chang, 1970)を適用し、その有効性について検討を行ってきた(林, 1979, 1982; など)。しかし、最近、吉田(1982)および小川・吉田(1983)は、INDSCALモデルを用いてパーソナリティ認知次元のウェイトを算出することの妥当性を疑問視し、これに代わる方法を提案している。

もとよりわれわれは、上記の問題にINDSCALモデルを適用することが唯一最良の方法であると信じて疑わないわけではない。いずれの方法にも、その方法なりの長所・短所が存在するのは当然である。さいわい、今回収集した資料では、INDSCALモデルに基づく分析のみでなく吉田(1982)の方法に基づく分析も実施可能であるため、今後、両者から得られる結果を比較し、各方法のもつ長所・短所を明確にしていきたいと考えている。

さらに、われわれは現在、個別尺度資料の因子分析から得られた個々人の認知空間の中での全SPの布置のパターンに着目し、これを個人間で比較することによって、IPTの個人差を分析する方法を検討している。

(3) IPTへの類型論的アプローチ

本稿における分析では、個々人が他者のパーソナリティ認知に際して働かせる次元を抽出し、各次元上におけるSPの布置を問題にしている。こうした方法は、いわばIPTへの特性論的アプローチとでも呼ぶことができよう。

これに対して、個々人が用いる特性語のカテゴリーないしはそれらの階層構造を問題にすることも可能である。Rosenberg & Sedlak (1972)は、こうした方向のこ

とをIPTの類型論的描写と呼んでいる。しかしながら、類型論本来の意味からすれば、IPTへの類型論的アプローチは、特性語ではなくSPを分析単位として行なわれるべきものであろう。

本研究では、SP全体をグルーピングさせ、各グループの特徴の自由記述を求めた資料やSP間の類似度を評定させた資料も収集されている。今後、これらの資料の分析を通して、IPTへの類型論的アプローチについても検討していきたい。

(4) 構造モデルからプロセス・モデルへの展開

これまで、本研究で収集された資料に基づく今後の検討課題のうち、主要な点を述べた。これらはいずれも、個々人がもつIPTの内容や構造的特徴についての分析である。

他方、このようなIPTに関する構造モデルの構築をめざす立場に対して、最近では、これをプロセス・モデル⁶⁾としてとらえようとする試みがなされるようになった。こうした立場では、現実のダイナミックな対人認知過程における情報処理に際して、IPTの果たす機能的側面が強調される。たとえばSchneider & Blankmeyer (1983)は、Cantor & Mischel (1977)の提唱するプロトタイプ概念からIPTを扱った研究を報告している。

構造モデルからプロセス・モデルへの展開の第一歩として、IPTを現実の対人関係におけるacquaintanceの過程と関連させて分析することも有効であろう。ここにおける分析の視点の1つとして、次のようなものが考えられる。

すなわち、まず個々人がもつIPTを、本稿と同様な多次元的認知空間としてとらえる。そして、ある他者に対するパーソナリティ認知とは、このような空間において当該SPを1つの点として位置づけることである、と想定する。この空間の原点付近は、いずれの次元でも際立った特徴のない他者が位置づけられる領域である。したがって、人がある他者と初めて出会い、相手についてごく限られた情報しかない時点では、当該SPを、こうした原点付近の領域に位置づけざるを得ない。しかし、その後、相手との社会的相互作用が進展するにつれ、点は空間内のある方向へと移動し、やがてある位置の付近へと収斂していくことになる。そして、原点からこの点へのベクトルが、その人物に対するある程度固まったパーソナリティ像を表わしている。

上記の分析の視点は、他者に対する印象の形成ならば

6) ここでいうプロセス・モデルとは、対人認知のプロセスにかかわるモデルの意味である。

に変容の過程を、認知者がもつIPTとの関連で検討する試みといえる。さらに、今後、IPTが現実の対人認知過程で果たす機能を解明していくためには、厳密な条件統制を施した実験的研究を行なっていくことも大切であろう。

文 献

- Bieri, J., Rigney, J., & Tripodi, T. 1964 Social concept attainment and cognitive complexity. *Psychological Report*, 15, 503 - 509.
- Bruner, J.S., & Tagiuri, R. 1954 The perception of people. In G. Lindzey (Ed.) *Handbook of social psychology*. Readings, Mass: Addison - Wesley.
- Cantor, N., & Mischel, W. 1977 Traits as prototypes: Effects in recognition memory. *Journal of Personality and Social Psychology*, 35, 38 - 48.
- Carroll, J.D., & Chang, J.J. 1970 Analysis of individual differences in multidimensional scaling via an N-way generalization of "Eckart-Young" decomposition. *Psychometrika*, 35, 283 - 319.
- Cronbach, L.J. 1955 Processes affecting scores on "understanding of others" and "assumed similarity." *Psychological Bulletin*, 52, 177 - 193.
- Cronbach, L.J. 1958 Proposals leading to analytic treatment of social perception scores. In R. Tagiuri & L. Petruccio (Eds.) *Person perception and interpersonal behavior*. Stanford University Press.
- Gara, M.A., & Rosenberg, S. 1979 The identification of person as supersets and subsets in free-response personality description. *Journal of Personality and Social Psychology*, 37, 2161 - 2170.
- Guttman, L. 1954 New approach to factor analysis: The radex. In P.F. Lazarsfeld (Ed.) *Mathematical thinking in the social sciences*. Glencoe, Ill.: Free Press.
- Harman, H.H. 1967 *Modern factor analysis* (Revised edition). Chicago: University of Chicago Press.
- 林 文俊 1976 対人認知構造における個人差の測定 (1) — 認知的複雑性の測度についての予備的検討 — 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), 23, 27 - 38.
- 林 文俊 1978 対人認知構造の基本次元についての一考察. 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), 25, 233 - 247.

- 林 文俊 1979 対人認知構造における個人差の測定 (4) — INDSICAL モデルによる多次元解析的アプローチ —. *心理学研究*, 50, 211-218.
- 林 文俊 1982 対人認知構造における個人差の測定 (8) — 認知者の自己概念および欲求との関連について —. *実験社会心理学研究*, 22, 1-9.
- 林 文俊・大橋正夫・廣岡秀一 1983 暗黙裡の性格観に関する研究 (I) — 個別尺度法によるパーソナリティ認知次元の抽出 —. *実験社会心理学研究*, 23, 9-25.
- Jackson, D.N., Chan, D.W., & Stricker, L.J. 1979 Implicit personality theory: Is it illusory? *Journal of Personality*, 47, 1-10.
- Jackson, D.N., & Stricker, L.J. 1982 Is implicit personality illusory? Armchair criticism vs. replicated empirical research. *Journal of Personality*, 50, 240-244.
- Kelly, G.A. 1955 *The psychology of personal constructs*. New York: Norton.
- Kim, M.P., & Rosenberg, S. 1980 Comparison of two structural models of implicit personality theory. *Journal of Personality and Social Psychology*, 38, 375-389.
- Mirels, H.L. 1976 Implicit personality theory and inferential illusions. *Journal of Personality*, 44, 467-487.
- Mirels, H.L. 1982 The illusory nature of implicit personality theory: Logical and empirical considerations. *Journal of Personality*, 50, 203-222.
- 小川一夫・吉田寿夫 1983 対人認知の次元ウエイトに関する研究 — ウエイトを推定する次元の決定 —. 広島大学教育学部紀要 (第I部), 31, 193-200.
- 大橋正夫・三輪弘道・平林 進・長戸啓子 1973 写真による印象形成の研究 (2) — 印象評定のための尺度項目の選定 —. 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), 20, 93-102.
- 大橋正夫・三輪弘道・長戸啓子・平林 進 1972 写真による印象形成の研究 — 序報 —. 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), 19, 13-25.
- 大橋正夫・長戸啓子・平林 進・吉田俊和・林 文俊・津村俊充・小川 浩 1976 相貌と性格の仮定された関連性 (1) — 対をなす刺激人物の評定値の比較による検討 —. 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), 23, 11-25.
- Powell, R.S., & Juhnke, R.G. 1983 Statistical models of implicit personality theory: A comparison. *Journal of Personality and Social Psychology*, 44, 911-922.
- Rosenberg, S. 1977 New approaches to the analysis of personal constructs in person perception. In J. Cole (Ed.), *Nebraska symposium on motivation*, Vol. 24. Lincoln: University of Nebraska Press.
- Rosenberg, S., & Sedlak, A. 1972 Structural representations of implicit personality theory. In L. Berkowitz (Ed.), *Advances in experimental social psychology*, Vol. 6. New York: Academic Press.
- Schneider, D.J. 1973 Implicit personality theory: A review. *Psychological Bulletin*, 79, 294-309.
- Schneider, D.J., & Blankmeyer, B.L. 1983 Prototype salience and implicit personality theories. *Journal of Personality and Social Psychology*, 44, 712-722.
- Tzeng, O.C.S., & Tzeng, C.H. 1982 Implicit personality theory: Myth or fact? An illustration of how empirical research can miss. *Journal of personality*, 50, 223-239.
- 吉田寿夫 1982 対人認知過程に関する研究 II — 認知次元のウエイトの推定について —. 広島大学大学院教育学研究科博士課程論文集, 8, 97-102.

(1983年7月31日 受稿)

STUDIES ON THE IMPLICIT PERSONALITY THEORY (II)
Comparison between "common scales method" and "individual scales method"

Masao OHASHI, Fumitoshi HAYASHI, and Shuichi HIROOKA

Since Bruner & Tagiuri (1954) and Cronbach (1955) proposed a concept of "implicit personality theory" (IPT) to describe perceivers' assumed inferential relations among personality traits, investigators have employed various statistical models to represent such subjective relational systems. In the present study, two factor-analytic models of IPT, one based on "common scales method" and the other based on "individual scales method", were compared with each other.

Twenty-five undergraduates (13 males and 12 females) were asked to rate thirty-one peers both on their own "individual scales" and on "common scales" (20 scales in each occasion). For each subject, two 20 x 20 intertrait correlation matrices from both types of ratings were factor-analyzed. In addition, ratings of "common scales" were aggregated across the different subjects.

Major findings obtained are as follows:

- (1) In "common scales method", range of numbers of factors extracted was three to seven. These factor structures of individual subjects' ratings were moderately congruent with the structure made by a group of subjects.
- (2) Structural properties in one's IPT were analyzed according to the procedure illustrated by Cronbach (1955, 1958). And it was suggested that Cronbach's method was a useful tool for analyzing IPT.
- (3) Contents of the factors extracted in "individual scales method" varied widely. About three fourths of these factors, however, were able to be interpreted as connected with the "fundamental three dimensions in perceiving personality" (Hayashi, 1978). Furthermore, implications of individual differences in these factor structures for the concept of IPT were discussed.